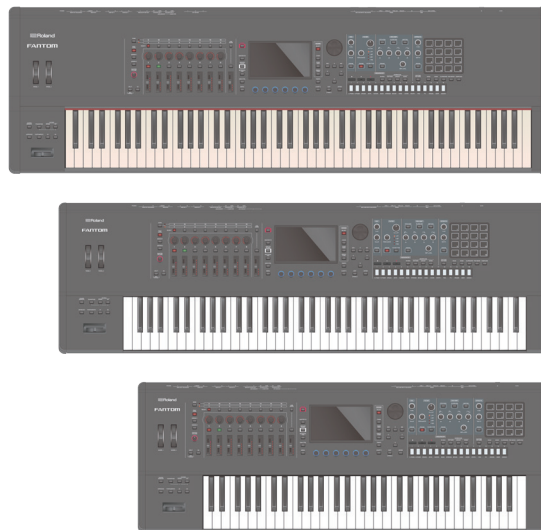


FANTOM 6

FANTOM 7

FANTOM 8

取扱説明書



English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

目次

安全上のご注意	2
使用上のご注意	4
各部の名称とはたらき	5
トップ・パネル	5
リア・パネル（機器の接続）	7
はじめに	8
電源を入れる	8
電源を切る	8
一定時間がたつと自動で電源が切れるようにする（Auto Off）	8
基本操作	9
本機の概要	11
音の単位	11
演奏編	12
音色を選ぶ（SCENE / TONE）	12
ゾーンを重ねる（レイヤー）	12
鍵盤を2つの鍵域に分ける（スプリット）	12
音域を半音単位で高く／低くする（トランスポーズ）	12
音域をオクターブ高く／低くする（オクターブ）	12
アルペジオ演奏をする	12
コード演奏をする（コード・メモリー）	13
リズム・パターンを選ぶ／鳴らす	13
テンポを変える	13
スライダー／コントロール・つまみの使いかた	13
Analog Filter の使いかた	13
複数のゾーンの音量を同時に変更する（モーショナル・パッド）	13
エディット編	14
ゾーンをエディットする	14
トーンをエディットする	14
エフェクトをエディットする	14
シーン、トーンを保存する	15
曲の順番にシーンを呼び出す（シーン・チェーン）	15

サンプラー編	16
パッドを押してサンプルを鳴らす	16
サンプルを再生し続ける（ホールド）	16
バンクを切り替える	16
サンプルを移動／コピーする	16
サンプリングする	17
シーケンサー編	18
シーケンサーの構成について	18
シーケンサーを再生する	18
パターンを録音する	19
グループの作成	21
ソングの作成	21
コントロール編	22
プラグイン・シンセを使ってライブ演奏する	22
パソコンと接続する	22
USBドライバを設定する	22
外部 MIDI 機器をコントロールする（EXT MIDI OUT）	22
USB オーディオを使う	22
アナログ・シンセサイザーをコントロールする（CV / GATE OUT）	22
設定編	23
各機能の詳細設定をする（Menu）	23
ユーザー・データをバックアップする（Backup / Restore）	23
工場出荷時の設定に戻す（Factory Reset）	23
主な仕様	23



取扱説明書（本書）

最初に読んでください。基本的な使いかたを説明しています。



PDF マニュアル（Web からダウンロード）

- **リファレンス・ガイド**
本機のすべての機能について解説しています。
- **パラメーター・ガイド**
本機のすべてのパラメーターについて解説しています。
- **MIDI インプリメンテーション**
MIDIメッセージの詳細資料です。



PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。
<https://www.roland.com/jp/manuals/>
2. 製品名「FANTOM-6」、[FANTOM-7]、または「FANTOM-8」を選んでください。



安全上のご注意

マークについて

本機に表示されているマークには、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れがあります。 キャビネットをあけないでください。	
注意： 感電防止のため、パネルやカバーははずさないでください。本機の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。 修理は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに依頼してください。		



このマークは、本機の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表しています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表しています。具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
	●は、強制（必ずすること）を表しています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

⚠ 警告
完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く 電源スイッチを切っても、本機は主電源から完全に遮断されてはいません。完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、本機にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。

Auto Off 機能について 本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください（P.8）。

分解や改造をしない 取扱説明書に書かれていないことはしないでください。故障の原因になります。

個人で修理や部品交換はしない 必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。


⚠ 警告
次のような場所で使用や保管はしない ・温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など） ・水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所 ・湯気や油煙が当たる場所 ・塩害の恐れがある場所 ・雨に濡れる場所 ・ほこりや砂ぼこりの多い場所 ・振動や揺れの多い場所 ・風通しの悪い場所


指定のスタンドを使用する 本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド（*1）を使用してください。

不安定な場所に設置しない 本機の設置にスタンド（*1）を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。


⚠ 警告
スタンドへ設置するときの注意 取扱説明書の指示どおりに設置してください（*2）。 正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

電源プラグは AC100V の電源コンセントに差し込む 電源プラグは、必ず交流（AC）100V の電源コンセントに差し込んでください。

付属の電源コードを使用する 電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。

電源コードを傷つけない 火災や感電の原因になります。

大音量で長時間使用しない 大音量で長時間使用すると、難聴になる恐れがあります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。


警告**異物や液体を入れない、液体の入った容器を置かない**

本機に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器（花びんなど）を置かないでください。ショートや誤動作など、故障の原因となることがあります。

**異常や故障が生じたときは電源を切る**

次のような場合は、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。



- 電源コードが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたりしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

お子様がけがをしないように注意する

お子様のいる場所で使用する場合やお子様が使用する場合、必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。

**落としたり、強い衝撃を与えたりしない**

破損や故障の原因になります。

**タコ足配線はしない**

発熱、発火する恐れがあります。

**海外でそのまま使用しない**

海外で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

**電源コードのアースを確実に取り付ける**

電源コードのアースを確実に取り付けてください。感電の恐れがあります（P.8）。

**火の付いているものを置かない**

本機の上に火の付いているもの（ロークなど）を置かないでください。

**注意****指定のスタンドのみ使用する**

本機は当社製のスタンド（*1）とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

**スタンドを使う前に安全を確認する**

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。

**電源コードはプラグを持って抜く**

断線を防ぐため、必ずプラグを持って電源コードを抜いてください。

**電源プラグを定期的に掃除する**

電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、火災や感電の原因になります。



定期的に電源プラグを抜き、乾いた布でゴミやほこりを拭き取ってください。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

万一故障したとき、火災の原因になります。

**電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する**

足に引っかけると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。

**上に乗ったり、重いものを置いたりしない**

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。

**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない**

感電の原因になります。

**移動するときはすべての接続をはずす**

本機を移動するときは、電源プラグをコンセントから抜き、外部機器との接続をはずしてください。

**注意****移動するときの注意**

本機を移動するときは以下のことを確認したあと、必ず2人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落としたりしないように注意してください。



- 電源コードをはずす。
- 外部機器との接続をはずす。

お手入れするときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと感電の原因になります。

**落雷の恐れがあるときは電源プラグをコンセントから抜く**

コンセントから抜いておかないと故障や感電の原因になります。

**ファンタム電源の取り扱いについて**

ファンタム電源供給の必要なコンデンサー・マイクを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。



（本機のファンタム電源：DC 48V、10mA Max）

*1 FANTOM-6、FANTOM-7: KS-10Z / KS-12、FANTOM-8: KS-10Z / KS-12 / KS-G8B

*2 スタンドへの設置方法について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

使用上のご注意

電源について

- 本機を、インバーター制御の製品やモーターを使った電気製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなど）と同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズで本機が誤動作したり、雑音が発生したりすることがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。

設置について

- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、本機との間隔や方向を変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させると、テレビ画面に色ムラが出たりラジオから雑音が出たりすることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 極端に湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴が付く（結露する）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 鍵盤の上にものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。
- 本機の上に液体の入った容器などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

お手入れについて

- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。

鍵盤の取り扱いについて

- ペンなどで書き込みをしたり、印を付けたりしないでください。インクが表面のラインに染み込んで落ちなくなります。
- シールなどを貼ったりしないでください。粘着力の強いものでは、シールがはがれなくなったり、粘着剤によって変色したりすることがあります。
- ひどい汚れを落とすときは、研磨剤が入っていない市販の鍵盤クリーナーを使ってください。はじめは軽く拭くようにします。汚れが落ちないときは、傷がつかないように徐々に力を入れながら拭くようにしてください。

修理について

- お客様が本機または付属品を分解（取扱説明書に指示がある場合を除く）、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

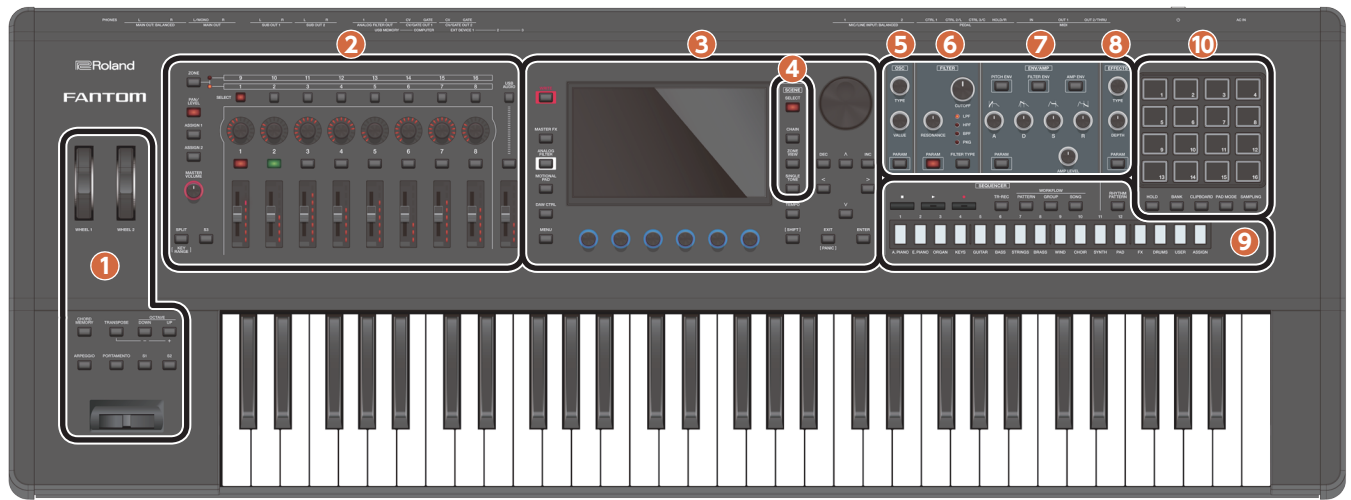
- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
 - 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
 - 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
 - ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
 - ケーブルを抜くときは、ショートや断線を防ぐため、プラグ部分を持って引き抜いてください。
 - 本機は多少発熱することがありますが、故障ではありません。
 - 周囲に迷惑がからないように、音量に十分注意してください。
 - 演奏時の打鍵音や振動は床や壁を通じて意外によく伝わります。周囲に迷惑がからないように注意しましょう。
 - 本機が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。
 - エクスペッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
 - 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。
- ### 外部メモリーの取り扱い
- 外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
 - 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
 - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

知的財産権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をすることに關しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- 本製品は GPL/LGPL オープン・ソース・ライセンス適用ソフトウェアを使用しており、お客様には、これらソフトウェアの個別の使用許諾または条件に従ってソースコードを入手、改変、再配布する権利があります。本製品に使用されているオープン・ソース・ライセンス適用ソフトウェアのソースコードの入手を希望されるお客様には、当社ウェブサイトからのダウンロードにて提供しております。具体的な入手方法については、以下（英文）をご参照ください。
<https://www.roland.com/global/support/>
- MP3 codec is Copyright (c) 1995-2017, SPIRIT.
- This Product uses the Source Code of μ T-Kernel under T-License 2.0 granted by the T-Engine Forum (www.tron.org).
- Roland, SuperNATURAL, Ivory Feel は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- Apple Logic Pro X、Garage Band、Mainstage は、米国 Apple Inc. の登録商標または商標です。

各部の名称とはたらき

トップ・パネル



1 コントローラー・セクション

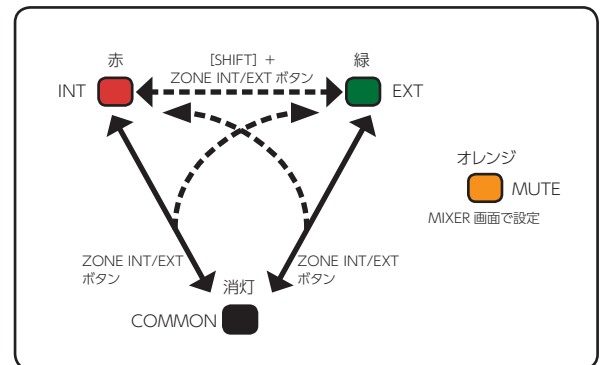
操作子	説明
WHEEL1 WHEEL2	いろいろなパラメーターや機能を割り当てられます。演奏中にホイールを動かして、割り当てられた機能を使います。 [SHIFT] ボタンを押しながら操作すると、設定画面が表示されます。
[CHORD MEMORY] ボタン	コード・メモリー機能をオン/オフします。
[TRANPOSE] ボタン	このボタンを押しながら OCTAVE [DOWN] [UP] ボタンを押すと、鍵盤を半音単位で上げ下げできます。
OCTAVE [DOWN] [UP] ボタン	鍵盤をオクターブ単位で上げ下げできます。
[ARPEGGIO] ボタン	アルペジオ機能をオン/オフします。
[PORTAMENTO] ボタン	ポルタメントをオン/オフします。
[S1] [S2] ボタン	いろいろなパラメーターや機能を割り当てることができます。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、設定画面が表示されます。
ピッチ・ベンド/モジュレーション・レバー	ピッチ（音の高さ）を変化させたり、ビブラートをかけたりします。

2 ゾーン・セクション

操作子	説明
[ZONE 1-8/9-16] ボタン	操作の対象となるゾーンを切り替えます。
[PAN/LEVEL] ボタン	ボタンを押して点灯させると、コントロール・つまみ [1] ~ [8] で各 ZONE のパンを、スライダー [1] ~ [8] で各 ZONE の音量を調節できます。
[ASSIGN1] ボタン [ASSIGN2] ボタン	スライダー [1] ~ [8]、コントロール・つまみ [1] ~ [8] に別の機能を割り当てます。 ASSIGN1 は SCENE で設定するパラメーター、ASSIGN2 はシステムで設定するパラメーターです。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、設定画面が表示されます。
[MASTER VOLUME] つまみ	MAIN OUT 端子、PHONES 端子から出力する音量を調節します。
[SPLIT/KEY RANGE] ボタン	スプリットをオン/オフします。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、キー・レンジの設定画面が表示されます。
[S3] ボタン	いろいろなパラメーターや機能を割り当てることができます。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、設定画面が表示されます。
ZONE SELECT ボタン [1] ~ [8]	操作の対象となるゾーン（カレント・ゾーン）を選びます。選んだゾーンがカレント・ゾーンになります。
コントロールつまみ [1] ~ [8]	いろいろなパラメーターを割り当てることができます。左側の機能選択ボタンにより、操作できるパラメーターが変わります。

操作子	説明
ZONE INT/EXT ボタン [1] ~ [8]	鍵盤を弾いたときに対象となるゾーンを鳴らすか、鳴らさないかを選びます。カレント・ゾーンとの組み合わせで、内蔵音源（外部音源）の鳴りかたが決まります。

ボタンの状態	対象となるゾーンがカレント・ゾーン のとき	対象となるゾーンがカレント・ゾーン ではないとき
消灯 (COMMON)	鍵盤を弾くと、内蔵音源、外部音源共に鳴ります。	鍵盤を弾いても、内蔵音源、外部音源共に鳴りません。内蔵シーケンサーや外部からの MIDI データで内蔵音源を鳴らすことはできません。
赤点灯 (INT)	鍵盤を弾くと、内蔵音源が鳴ります。	他のカレント・ゾーンの ZONE INT/EXT ボタンがオン状態（赤、または緑に点灯）のときのみ、鍵盤を弾くと、内蔵音源が鳴ります。
緑点灯 (EXT)	鍵盤を弾くと、外部音源が鳴ります。	他のカレント・ゾーンの ZONE INT/EXT ボタンがオン状態（赤、または緑に点灯）のときのみ、鍵盤を弾くと、外部音源が鳴ります。
オレンジ点灯 (MUTE)	音源がミュートされた状態です。内蔵音源は鳴りません。直前の状態が緑点灯のときは、外部音源が鳴ります。	



スライダー [1] ~ [8]	いろいろなパラメーターを割り当てることができます。左側の機能選択ボタンにより、操作できるパラメーターが変わります。
[USB AUDIO SELECT] ボタン	USB AUDIO 設定画面が表示されます。
[USB AUDIO IN/OUT] ボタン	USB AUDIO スライダー機能の INPUT と OUTPUT を切り替えたり、USB AUDIO 機能をオフにしたりします。
[USB AUDIO] スライダー	USB AUDIO の INPUT レベル、OUTPUT レベルを調節します。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

3 共通セクション

操作子	説明
[WRITE] ボタン	WRITE 画面が表示されます。 シーンやトーンを保存します。
[MASTER FX] ボタン	MASTER FX 画面が表示されます。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、MASTER EQ 設定画面が表示されます。
[ANALOG FILTER] ボタン	アナログ・フィルター設定画面が表示されます。
[MOTIONAL PAD] ボタン	MOTIONAL PAD 画面が表示されます。
[DAW CTRL] ボタン	DAW のコントローラーとして使うことができます。
[MENU] ボタン	MENU 画面が表示されます。
ディスプレイ	操作に応じて、いろいろな情報を表示します。
FUNCTION つまみ [E1] ~ [E6]	つまみを回すと、画面の下に表示された機能やパラメーターの値を変更します。また、押し込むことで、ボタン操作と同じ働きをします。
[TEMPO] ボタン	TEMPO 画面が表示されます。 また、ボタンを繰り返し押し出した間隔で、テンポを設定します。
[SHIFT] ボタン	他のボタンと組み合わせて押すと、関連する設定画面が表示されます。
[VALUE] ダイアル	値を変更します。 [SHIFT] ボタンを押しながらダイアルを回すと、値が大きく変わります。
[DEC] [INC] ボタン	値を変更します。 片方のボタンを押しながら、もう一方のボタンを押すと値が速く変わります。 また、[SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、値が大きく変わります。
カーソル [▲] [▼] [◀] [▶] ボタン	カーソル位置を上下左右に移動します。 または、画面を切り替えます。
[EXIT] ボタン	元の画面に戻ったり、開いているウィンドウを閉じたりします。
[ENTER] ボタン	値の確定、操作の実行、またはリストなどを表示するときに使います。

4 シーン・セクション

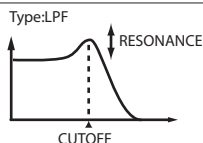
操作子	説明
[SCENE SELECT] ボタン	SCENE SELECT 画面が表示されます。 シーンを選びます。
[SCENE CHAIN] ボタン	SCENE CHAIN 画面が表示されます。 シーンを順番に呼び出します。
[ZONE VIEW] ボタン	ZONE VIEW 画面が表示されます。 各ゾーンの状態を確認できます。
[SINGLE TONE] ボタン	ZONE1 にピアノ音色を呼び出します。ZONE1 以外はオフになります。 注意 このボタンを押すと、保存していないシーンの設定は失われますのでご注意ください。

5 OSC (Oscillator) セクション

操作子	説明
[TYPE] つまみ	OSC のタイプを設定します。
[VALUE] つまみ	OSC に関する設定を変更することができます。
[PARAM] ボタン	TONE EDIT ZOOM 画面の OSC 設定画面が表示されます。

6 FILTER セクション

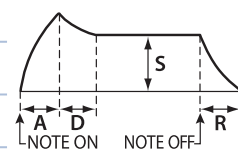
操作子	説明
[CUTOFF] つまみ	フィルターのカットオフ周波数を設定します。
[RESONANCE] つまみ	フィルターのレゾナンスを設定します。
[FILTER TYPE] ボタン	フィルターのタイプを選びます。
[PARAM] ボタン	TONE EDIT ZOOM 画面の FILTER 設定画面が表示されます。



7 ENV/AMP セクション

操作子	説明
[PITCH ENV] ボタン	[A] [D] [S] [R] つまみでピッチ・エンベロープ (ピッチの時間的な変化) を設定します。

操作子	説明
[FILTER ENV] ボタン	[A] [D] [S] [R] つまみでフィルター・エンベロープ (カットオフ周波数の時間的な変化) を設定します。
[AMP ENV] ボタン	[A] [D] [S] [R] つまみでアンプ・エンベロープ (音量の時間的な変化) を設定します。
[A] つまみ	エンベロープのアタック・タイムを設定します。
[D] つまみ	エンベロープのディケイ・タイムを設定します。
[S] つまみ	エンベロープのサステイン・レベルを設定します。
[R] つまみ	エンベロープのリリース・タイムを設定します。
[AMP LEVEL] つまみ	音量を設定します。
[PARAM] ボタン	TONE EDIT 画面が表示されます。PITCH、FILTER、AMP のうち、選ばれているパラメーターによって表示される画面が変わります。



8 EFFECTS セクション

操作子	説明
[TYPE] つまみ	選ばれているゾーンの MFX TYPE を設定します。
[DEPTH] つまみ	選ばれているゾーンの MFX DEPTH を設定します。
[PARAM] ボタン	EFFECTS EDIT の MFX 画面が表示されます。

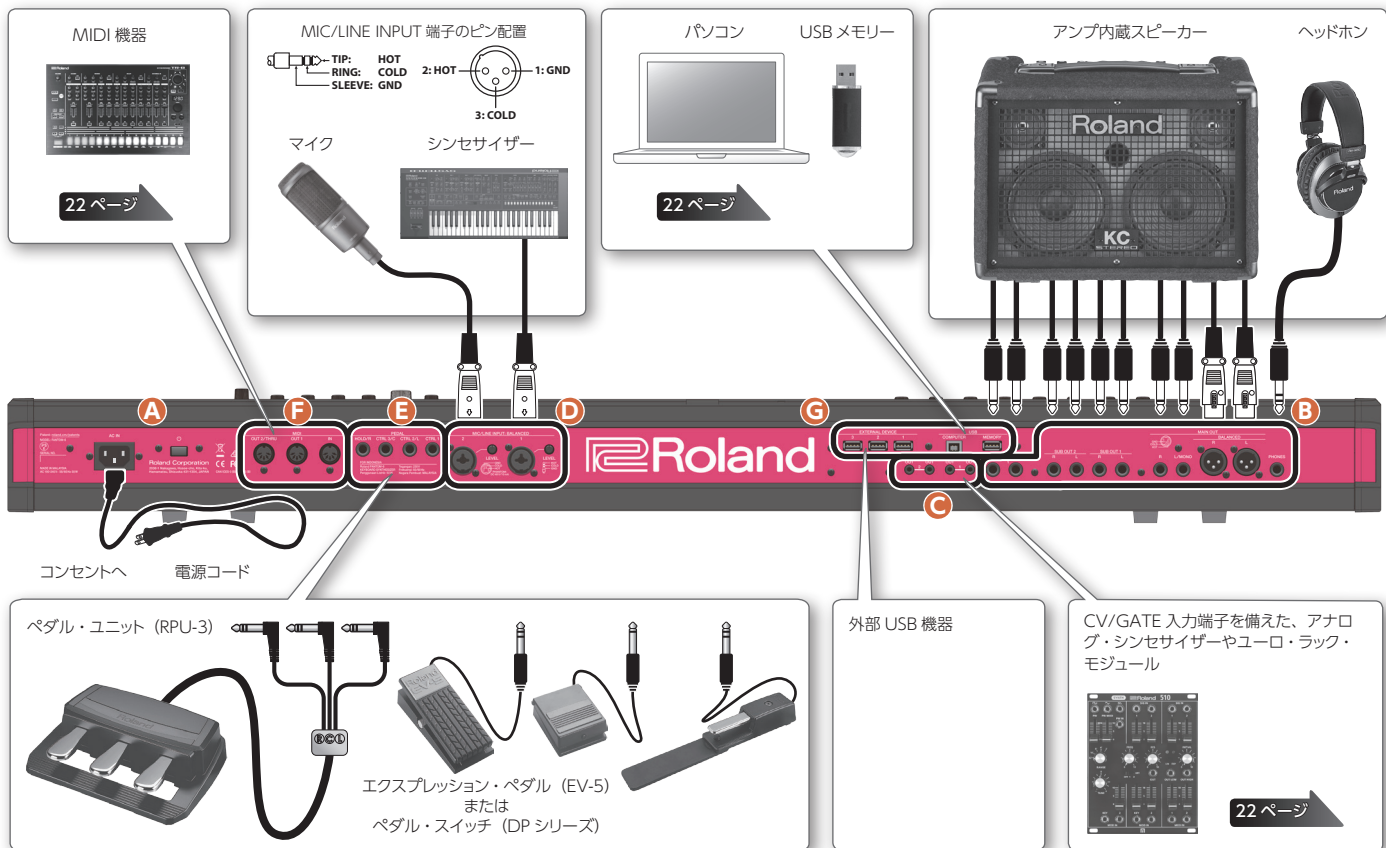
9 シーケンサー・セクション

操作子	説明
トーン・カテゴリ・ボタン [1] ~ [16]	各カテゴリのトーンを選びます。 その他にも、TR-REC の入力用に使用したり、SCENE CHAIN 機能のセレクトターとして使用したりと、場面によって機能が変わります。
[■STOP] ボタン	パターンの再生や録音を停止したり、グループ、ソングの再生を停止したりします。
[▶PLAY] ボタン	パターンや、グループ、ソングを再生します。
[●REC] ボタン	録音待機状態になります。
[TR-REC] ボタン	TR-REC を有効にします。(P.20)
[PATTERN] ボタン	PATTERN 画面が表示されます。
[GROUP] ボタン	GROUP 画面が表示されます。
[SONG] ボタン	SONG 画面が表示されます。
[RHYTHM PATTERN] ボタン	RHYTHM PATTERN 画面が表示されます。

10 パッド・セクション

操作子	説明
[HOLD] ボタン	ホールド (パッドを離しても音を鳴らし続ける) をオン/オフします。
[BANK] ボタン	パッドのバンクを切り替えます。
[CLIP BOARD] ボタン	サンプルをパッドからパッドへ移動したり、コピーしたりできます。
[PAD MODE] ボタン	パッドに割り当てる機能を設定します。[SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、現在選ばれているパッド・モードの設定画面や関連画面が表示されます。
[SAMPLING] ボタン	サンプリングします。
パッド [1] ~ [16]	パッドに割り当てられているサンプルを再生します。 パッド・モードの設定で、いろいろな機能を割り当てることができます。

リア・パネル（機器の接続）



※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

A 電源

操作子	説明
[POWER] スイッチ	電源をオン/オフします。
AC IN 端子	付属の電源コードを接続します。 ※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

B OUTPUT 端子

操作子	説明
PHONES 端子	ヘッドホンを接続します。 ヘッドホンを接続しても、OUTPUT 端子や BALANCED OUT 端子からはオーディオ信号が出力されます。
MAIN OUT 端子 (L, R) (Balanced)	オーディオ信号のバランス出力端子です。ミキサーなどと接続します。 ※ MAIN OUT 端子のピン配置 1: GND 2: HOT 3: COLD
MAIN OUT 端子 (L/MONO, R)	オーディオ信号の出力端子です。アンプなどと接続します。 モノで出力するときは、L/MONO 端子に接続してください。
SUB OUT 1 端子 (L, R)	サブ・アウトのオーディオ信号の出力端子です。
SUB OUT 2 端子 (L, R)	サブ・アウトのオーディオ信号の出力端子です。
ANALOG FILTER OUT 端子 (1, 2)	アナログ・フィルター・セクションを通った音を出力します。

C CV/GATE 端子

操作子	説明
GATE OUT 端子 (1, 2)	ノート・オン (+5V) / オフを出力します。 GATE OUT 2 は設定により CV OUT としても使えます。
CV OUT 端子 (1, 2)	ピッチを出力します。トランスポーズやオクターブ・シフトが設定されているときは、設定に応じて電圧が変化します。 OCT/V に対応しています (Hz/V には非対応)。

D INPUT 端子

操作子	説明
MIC/LINE INPUT 端子 (1, 2) (Balanced)	マイクやオーディオ機器、外部シンセサイザーなどを接続します。 MIC/LINE INPUT 端子は XLR タイプと TRS タイプのプラグに対応しています。また XLR タイプは、ファンタム電源 48V に対応しており、ファンタム電源対応のコンデンサー・マイクを接続することができます (ファンタム電源: DC 48V, 10mA Max)。 TRS プラグのステレオ入力は非対応です。
LEVEL つまみ (1, 2)	MIC/LINE INPUT 端子の入力レベルを調整します。 MAX MIN

E FOOT PEDAL 端子

操作子	説明
PEDAL 端子 (CTRL 1, CTRL 2/L, CTRL 3/C, HOLD/R)	HOLD/R 端子にペダル・スイッチ (別売: DP シリーズ) を接続すると、ダンパー・ペダルとして使用することができます。 また、CTRL 1、CTRL 2/L、CTRL 3/C 端子に接続したペダルにいろいろな機能を割り当てることができます。 ※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

F MIDI 端子

操作子	説明
MIDI 端子 (IN, OUT 1, OUT 2/THRU)	外部 MIDI 機器と接続して、MIDI メッセージを送受信します。 OUT 2/THRU 端子は、MIDI THRU または MIDI OUT を切り替えて使います。

G USB 端子

操作子	説明
USB MEMORY 端子	市販の USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。
USB COMPUTER 端子	パソコンと接続して、演奏情報やオーディオ信号をやりとりします。
EXT DEVICE 端子 (1, 2, 3)	外部 USB 機器と接続します。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

はじめに

電源を入れる

※ 正しく接続したら、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

1. **本機の音量を最小にします。**
接続している外部機器の音量も最小にしてください。
2. **[⏻] スイッチを押します。**
電源が入り、ディスプレイが点灯します。
3. **接続している外部機器の電源を入れます。**
4. **接続している外部機器の音量を調節します。**
5. **本機の音量を調節します。**

電源を切る

1. **本機の音量を最小にします。**
接続している外部機器の音量も最小にしてください。
 2. **接続している外部機器の電源を切ります。**
 3. **[⏻] スイッチを押します。**
電源が切れます。
- ※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。
- ※ 完全に電源を切る必要があるときは、本機の [⏻] スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。
詳しくは「完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く」(P.2) をご覧ください。

一定時間がたつと自動で電源が切れるようにする (Auto Off)



本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。
自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください。

注意

- 電源が切れると保存していないデータは失われます。残しておきたいデータはあらかじめ保存しておいてください。
- 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

オート・オフの設定を変える

1. **[MENU] ボタンを押します。**
MENU 画面が表示されます。
2. **<SYSTEM>にタッチします。**
SYSTEM 画面が表示されます。
3. **<GENERAL>にタッチします。**
4. **[Auto Off] を選んで設定を変更します。**

パラメーター	設定値	説明
Auto Off	Off	自動で電源を切らない設定にします。
	30min	30 分間操作をしないと、自動で電源が切れます。
	240min (工場出荷時)	240 分間 (4 時間) 操作をしないと、自動で電源が切れます。

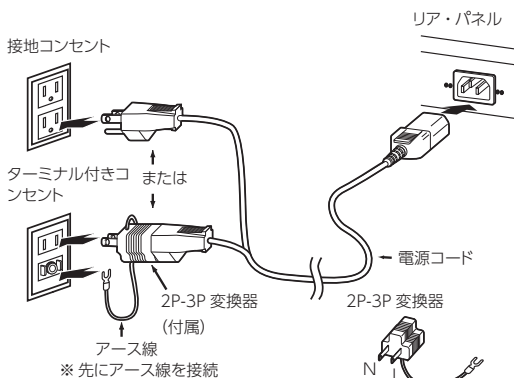
5. **オート・オフの設定を記憶する場合は、System 画面で [WRITE] ボタンを押します。**

電源コードの接続



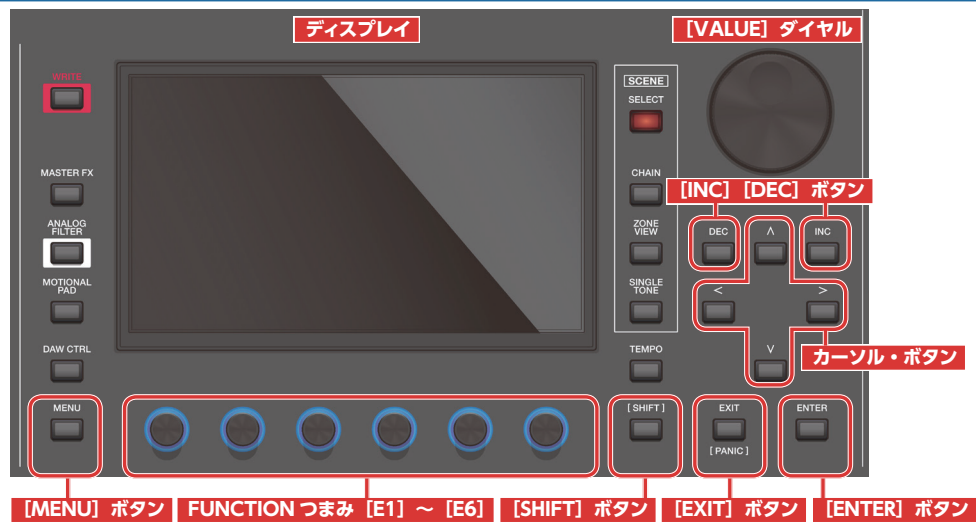
感電を防ぐために付属の電源コードを使用し、アースを確実に取り付けてください。

付属の電源コードには、感電と機器の損傷を防ぐためにアース用電極端子を加えた 3 端子のプラグがついています。



- コンセントが接地コンセント (端子穴が 3 個) の場合、そのままコンセントにプラグを挿し込んでください。
 - コンセントがアースターミナル付コンセント (端子穴が 2 個) の場合、プラグに 2P-3P 変換器をつけ、アース接続後コンセントに挿し込みます。
- 警告:** アースは必ず、電源プラグをコンセントに差し込む前に接続してください。また、アースは必ず、電源プラグをコンセントから抜いてからはずしてください。コンセントにアース端子がない場合は、電気工事店に接地工事を依頼してください。

基本操作



値の変更

設定値を変更するときは、以下のようになります。

[INC] [DEC] ボタン

値を大きくするときは [INC] ボタンを押し、小さくするときは [DEC] ボタンを押します。

目的	操作
連続して値を変える	[DEC] ボタンまたは [INC] ボタンを押し続けます。
値を速く変える	[INC] ボタンを押しながら [DEC] ボタンを押します。 [DEC] ボタンを押しながら [INC] ボタンを押します。
値の変化量を大きくする	[SHIFT] ボタンを押しながら [DEC] ボタンを押します。 [SHIFT] ボタンを押しながら [INC] ボタンを押します。

[VALUE] ダイアル

値を大きくするときは時計回りに回し、小さくするときは反時計回りに回します。

目的	操作
値の変化量を大きくする	[SHIFT] ボタンを押しながら [VALUE] ダイアルを回します。

ディスプレイ (タッチ・パネル)

画面内のオン/オフ・アイコンや、つまみ・アイコン、スライダー・アイコンなどを直接タッチ、またはドラッグすることでオン/オフを切り替えたり、値を変更したりすることができます。

NUMERIC ウィンドウ

[SHIFT] ボタンを押しながら [ENTER] ボタンを押すと、NUMERIC ウィンドウが表示されます。パラメーターの数値をタッチ・パネルから直接入力するときに便利です。

注意

パラメーターによっては NUMERIC 入力に対応していない場合があります。

カーソルの移動

1 つの画面やウィンドウには複数の設定項目 (パラメーター) や選択項目が表示されています。これらを [INC] / [DEC] ボタン、[VALUE] ダイアルで変更する場合は、その対象となる箇所にカーソルを移動します。カーソルを移動させるには、以下のようになります。

カーソル [▲] [▼] [◀] [▶] ボタン

カーソル・ボタンを押すと、押した方向にカーソルが移動します。

目的	操作
連続してカーソルを移動する	カーソル・ボタンを押し続けます。
カーソルを速く移動する	一方のカーソル・ボタンを押したまま、反対方向のカーソル・ボタンを押し続けます。

ディスプレイ (タッチ・パネル)

画面内のパラメーター値、つまみ・アイコン、スライダー・アイコンなどを直接タッチすることで、その場所へカーソルを移動することができます。

注意

アイコンによってはカーソル移動できない場合があります。

値の確定／キャンセル

[ENTER] ボタン

値の確定や操作の実行に使います。トーンやパラメーターにカーソルを合わせて [ENTER] ボタンを押すと、リストを表示して設定を変更できます。

[EXIT] ボタン

元の画面に戻ったり、開いているウィンドウを閉じたりします。

ディスプレイ (タッチ・パネル)

確認画面などで表示される < OK > < SELECT > などは [ENTER] ボタンと同じ動きを、< CANCEL > < EXIT > などは [EXIT] ボタンと同じ動きをします。



[SHIFT] ボタン

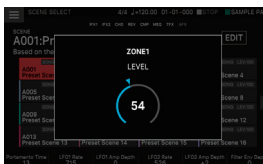
他のボタンと組み合わせて使います。

[SHIFT] ボタンを押しながら他のボタンを押すと、押したボタンに関する設定画面に移動することができます (ショート・カット)。

FUNCTION つまみ [E1] ~ [E6]

画面ごとに、パラメーターの変更、リストやタブのスクロールなどの機能が割り振られたファンクションつまみとしてはたります。また、つまみを押し込むことで、ボタンのような動きで値を変えることができます。

つまみやスライダーの操作



つまみやスライダーなどで設定を変更すると、変更したパラメーターとその値が、ポップアップ画面に表示されます。ポップアップ画面は、しばらく表示すると自動的に閉じます。パラメーターによってはポップアップ画面が表示されません。

[MENU] ボタン

各機能の詳細設定やシステム設定をします。SCENE SELECT 画面の左上の < ≡ > アイコンをタッチしてもメニュー画面を表示できます。

本書内での操作手順について

本機で「値の変更」、「カーソルの移動」、「値の確定／キャンセル」、「画面の移動」をする操作については、すでに説明されているように、そのほとんどの場合、複数の方法が用意されています。([ボタン操作]、[タッチ・パネル操作]、[ダイヤル操作] など)。

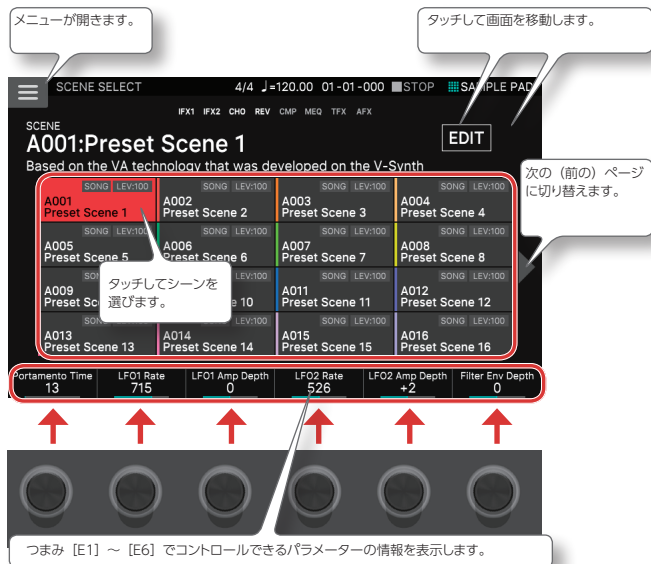
本書では、案内が煩雑になるのを防ぐ目的で、以降の操作説明において、すべての方法を記述するのではなく、「～にカーソルを合わせて値を変更します。」といった簡潔な説明で記述してあります。実際の操作方法については、上記にある複数の操作方法の中からのお好みの方法を選んで操作してください。

ディスプレイの操作

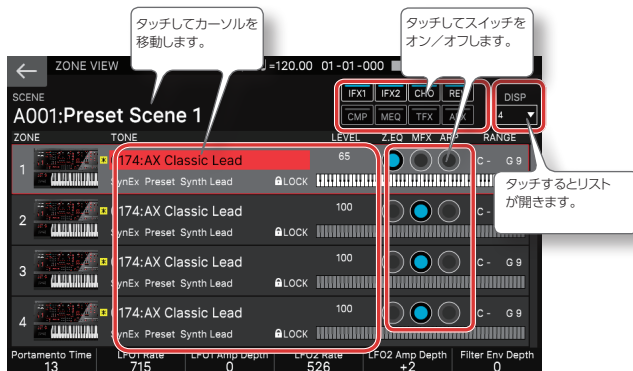
本機のディスプレイはタッチ・パネルになっており、ディスプレイに直接タッチすることで、さまざまな操作ができます。たくさんの画面がありますが、ここでは基本的な画面操作の例を紹介します。

- タッチ・パネルは指で軽く触れるだけで動作します。強く押ししたり、固いもので押ししたりすると、タッチ・パネルを破損することがあります。力の入れすぎには十分注意して、必ず指で操作してください。
- [] で囲まれた文字はパネル上のボタンを表します。< > で囲まれた文字は画面上のボタンやつまみを表します。

SCENE SELECT 画面



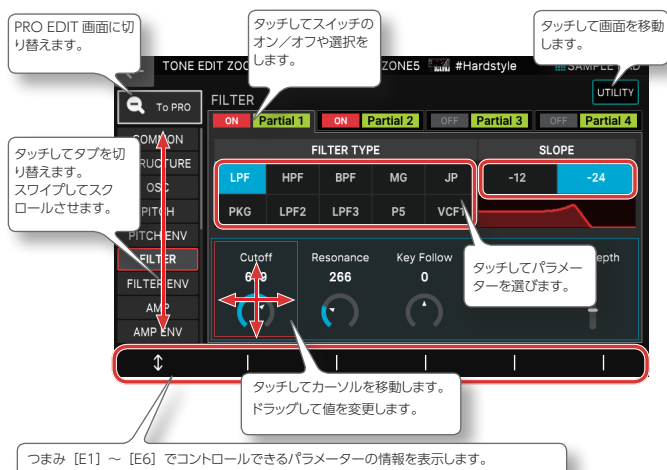
ZONE VIEW 画面



MENU 画面



TONE EDIT 画面



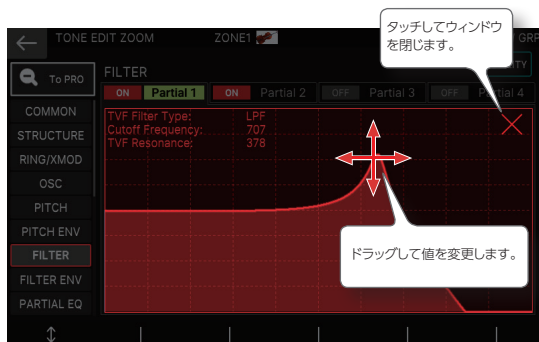
RENAME 画面



メモ

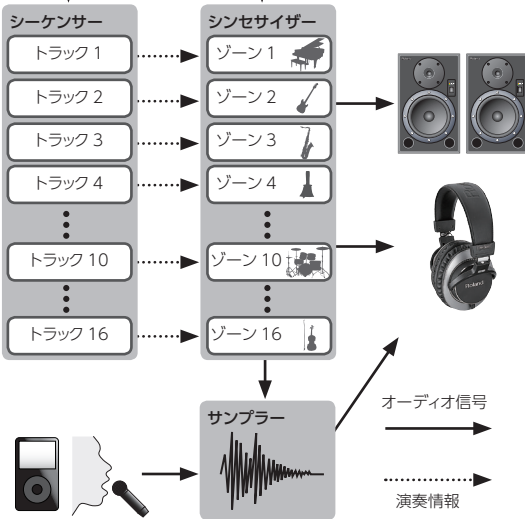
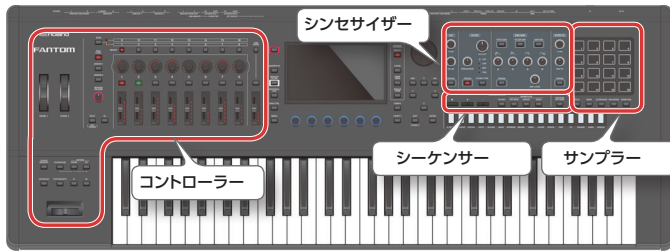
どの画面にいてもわからなくなった場合、[EXIT] ボタンを数回押すか、[SCENE SELECT] ボタンを押せば、SCENE SELECT 画面に戻ることができます。

TONE EDIT 画面



本機の概要

本機は大きく分けて、「コントローラー」「シンセサイザー」「シーケンサー」「サンプラー」の4つで構成されています。



コントローラー

鍵盤、パッド、ピッチ・ベンド/モジュレーション・レバー、ホイール、パネル上のつまみ、スライダー、リア・パネルに接続したペダルなどが含まれます。キーを押す/離す、ダンパー・ペダルを踏むなどの演奏情報をMIDIメッセージに変換して、音源部や外部MIDI機器に送信します。

シンセサイザー

音を発生させたり、変化させたりする部分です。コントローラーからの演奏情報をオーディオ信号に変換して、OUTPUT端子やPHONES端子から出力します。

シーケンサー

16トラックのMIDIシーケンサーを使って、パターンを作ることができます。シーン上の16ゾーンのトーンを使って、そのまま16トラックで録音できます。リアルタイム録音、ステップ録音、TR-RECに対応しています。パターンの組み合わせでグループを作り、グループを並べてソングを作ることができます。

パターン

音色ごとに演奏情報を記録したシーケンス・データの単位です。1トラックに最大8個持つことができます。1つのパターンは最大32小節まで記録できます。

グループ

各トラックのパターンの組み合わせを記録したものです。1シーンに最大16個のグループを作ることができます。

ソング

グループを順に並べていくことで、曲を作ることができ、その並び順を記録したものをソングといいます。1シーンに1個のソングを作ることができます。

サンプラー

サンプラー部は、鍵盤の演奏や、オーディオ機器やマイクなどの入力音を、本機にオーディオ録音（サンプリング）します。サンプリングされたサンプルは、パッドを押して再生します。

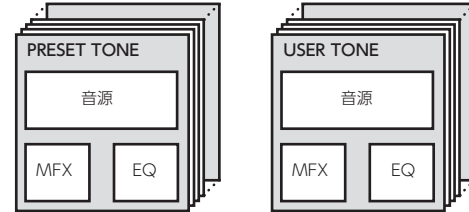
サンプル

サンプリングした、音の素材のことです。サンプルごとにループなどの設定を加え、パッドに割り当てます。

音の単位

トーン (TONE)

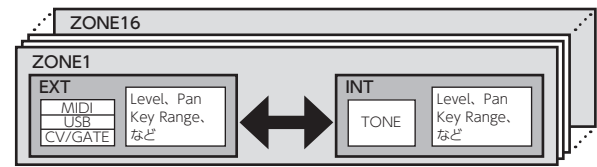
音色の最小単位をトーンと呼びます。トーンは音源とエフェクト (MFX+EQ) の組み合わせで構成されます。トーンはトーン・カテゴリ・ボタン [1] ~ [16] でカテゴリごとに選ぶことができます。



エディットしたトーンは、ユーザー・トーンとして保存できます。また、トーンの中には、複数の打楽器音を集めた「ドラム・キット」も含まれます。ドラム・キットでは、押さえる鍵盤（ノート・ナンバー）によって異なった打楽器音が鳴るようになっています。

ゾーン (ZONE)

トーンを演奏するための入れ物です。1つのトーンを1つのゾーンに割り当てて鳴らします。ゾーンごとに、鍵盤との接続、鍵盤の指定、音量、パン、コントローラーの受信などの演奏に必要な設定をします。ゾーンは16個あり、ゾーンを組み合わせ、複数のトーンで構成された音色を作ったり、曲ごとの演奏（音色）設定の土台を作ったりするのに適しています。また、任意のゾーンを内蔵音源用ではなく、外部音源のコントロールに使うこともできます (EXT ZONE)。

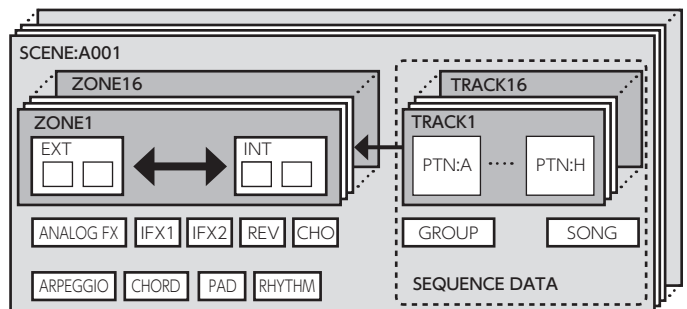


シーン (SCENE)

シーンは、ゾーンごとの設定（トーン、MFX、音量など）、ゾーン共通の設定（リバーブ、コーラス、IFX、Analog Filterなど）、ゾーンごとのシーケンス・データなどの、お気に入りの演奏状態をそのまま記憶したものです。

思いついた曲やフレーズのアイデアをそのままシーンに記憶でき、曲ごとにシーンを切り替えて管理することができます。保存したシーンは、起動時後に表示される SCENE SELECT 画面で自由に呼び出すことができます。

SCENE CHAIN 機能を使えば、ライブの曲順でシーンを並べて順番に呼び出したり、よく使うシーンをまとめて簡単に呼び出したりすることができます。(P.15)



演奏編

音色を選ぶ (SCENE / TONE)

シーンを選ぶ

1. [SCENE SELECT] ボタンを押します。
SCENE SELECT 画面が表示されます。



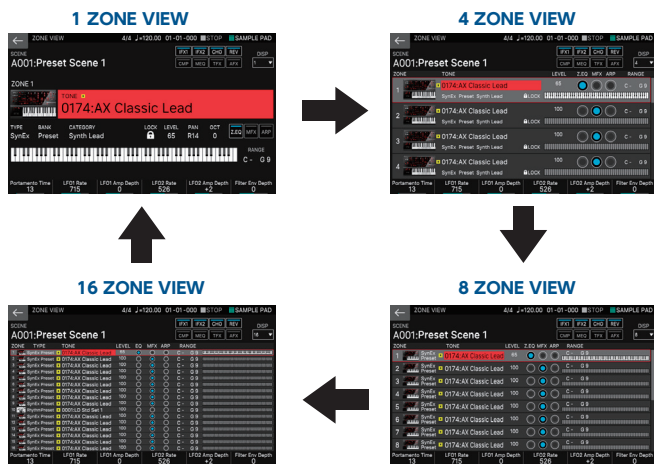
2. 画面内のシーン・アイコンをタッチして目的のシーンを選びます。
選ばれたシーンのアイコンには色が付きます。



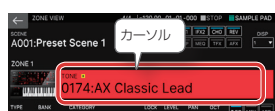
画面内は 4 x 4 の 16 個のシーン・アイコンが並び、その中からシーンを選ぶことができます。画面内の左右端にある ◀ ▶ アイコンをタッチすると、前の (次の) 16 個のシーンを選べるようになります。

トーンを選ぶ

1. [ZONE VIEW] ボタンを押します。
ZONE VIEW 画面が表示されます。
[ZONE VIEW] ボタンを押すたびに、VIEW 数 (一度に表示するゾーンの数) が切り替わります。



2. ZONE SELECT ボタン [1] ~ [8] を押して、操作するゾーンを選びます。
ゾーン 9 ~ 16 を選ぶときは、[ZONE 1-8/9-16] ボタンでグループを切り替えてから、ZONE SELECT [1] ~ [8] ボタンを押します。
3. トーン・カテゴリ・ボタン [1] ~ [16] のいずれかを押して、トーンの種類 (カテゴリ) を選びます。
4. カーソルをトーン名 (番号) に合わせて、[VALUE] ダイアルや [INC] [DEC] ボタンで、トーンを選びます。



- カーソルをトーン名 (番号) に合わせた状態で [ENTER] ボタンを押すと、[TONE LIST] が表示されます。

ゾーンを重ねる (レイヤー)

1. 重ねて鳴らしたいゾーンの ZONE INT/EXT ボタン押して、赤点灯させます。
2. 点灯させたゾーンのうち、いずれかのゾーンの ZONE SELECT ボタンを押してカレント・ゾーンに指定します。
鍵盤を弾くと、赤点灯させたゾーンを重ねて演奏できます。

注意

ZONE INT/EXT ボタンが緑点灯しているゾーンは、外部 MIDI 音源をコントロールしています。
内部音源に切り替える場合は、もう一度 [SHIFT] ボタンを押しながら該当する ZONE INT/EXT ボタンを押して、ボタンを赤点灯 (INT 設定) させてください。

鍵盤を 2 つの鍵域に分ける (スプリット)

1. [SPLIT] ボタンを押して、点灯させます。
高音域でゾーン 1 のトーン、低音域でゾーン 4 のトーンが鳴ります。
2. スプリットを解除するときは、[SPLIT] ボタンを押して消灯させます。
解除すると、高域と低域の鍵域 (KEY RANGE) がリセットされ、レイヤー状態に戻ります。

音域の分かれる位置を変える (スプリット・ポイント)

1. [SPLIT] ボタンを押しながら、スプリット・ポイントにしたい鍵を押します。
スプリット・ポイントが表示されます。
[SPLIT] ボタンから指を離すと画面が元に戻ります。
スプリット・ポイントの鍵は、ゾーン 1 に含まれます。

メモ

- 高音域の音色を変更したい場合は、ZONE SELECT [1] を、低音域の音色を変更したい場合は、ZONE SELECT [4] を、押してから、音色を選んでください。
- KEY RANGE 機能を使うと、ゾーンごとに鍵域を自由に設定することができます。

音域を半音単位で高く／低くする (トランスポーズ)

1. [TRANPOSE] ボタンを押しながら、OCTAVE [DOWN] ボタンまたは [UP] ボタンを押します。
• -5 ~ +6 半音まで設定できます。
• 元に戻すときは、[TRANPOSE] ボタンを押しながら、OCTAVE [DOWN] ボタンと [UP] ボタンを同時に押します。

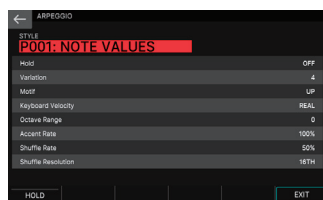
音域をオクターブ高く／低くする (オクターブ)

1. OCTAVE [DOWN] ボタンまたは [UP] ボタンを押します。
• 最大 ± 3 オクターブまで設定できます。
• 元に戻すときは、OCTAVE [DOWN] ボタンと [UP] ボタンを同時に押します。

アルペジオ演奏をする

アルペジオは、押さえたキーに従って、自動的にアルペジオ演奏する機能です。

1. ZONE VIEW 画面で対象となるゾーンの ARP を [ON] にします。
2. [ARPEGGIO] ボタンを押して、点灯させます。



3. 鍵盤で和音を弾きます。
押さえた和音の構成音に従って、オンにしたゾーンのアルペジオ演奏が始まります。
4. カーソルを [STYLE] に合わせて、スタイルを変更します。
選んだスタイルによって、アルペジオ演奏が変化します。
5. オフにするときは、もう一度 [ARPEGGIO] ボタンを押して消灯させます。

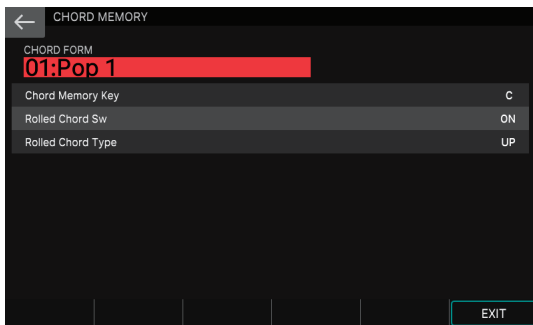
メモ

コード・メモリー機能と一緒に使うと、指一本で多彩なアルペジオ・サウンドを簡単に演奏できます。

コード演奏をする (コード・メモリー)

コード・メモリーは、鍵盤のキーを 1 つ弾くだけで、あらかじめ登録されているコード・フォームに従って和音を鳴らすことができる機能です。

1. [CHORD MEMORY] ボタンを押して、点灯させます。



2. 鍵盤を弾きます。

選ばれているコード・フォームに従って、和音が鳴ります。

3. カーソルを [CHORD FORM] に合わせて、コード・フォームを変更します。

和音の鳴りかたが変化します。

4. オフにするときは、もう一度 [CHORD MEMORY] ボタンを押して消灯させます。

リズム・パターンを選ぶ／鳴らす

本機では、リズム・パターンを鳴らしながら演奏することができます。

1. [RHYTHM PATTERN] ボタンを押します。

RHYTHM PATTERN 画面が表示されます。



2. カーソルを [RHYTHM GROUP] に合わせます。

3. [VALUE] ダイアルで、リズム・グループを選びます。

4. <Intro>～<Ending>をタッチして、鳴らすリズム・パターンを選びます。

リズム・パターンが鳴ります。

メモ

停止するときは、鳴っているリズム・パターンのアイコンにタッチします。

テンポを変える

1. [TEMPO] ボタンを押して、TEMPO 画面を表示させます。

2. [VALUE] ダイアルで、テンポを変更します。

メモ

[TEMPO] ボタンを押すタイミングで、テンポを設定することができます (タップ・テンポ)。設定したいテンポの 4 分音符のタイミングで 3 回以上押してください。

スライダー／コントロール・つまみの使いかた

1. [ZONE 1-8/9-16] ボタンで、対象となるゾーン (ZONE1～ZONE8 / ZONE9～ZONE16) を切り替えます。

2. 機能選択ボタンを押して、操作するパラメーターを選びます。

ボタン	説明
[PAN/LEVEL] ボタン	コントロール・つまみで各ゾーンのパンを、スライダーで各ゾーンの音量を調節できます。
[ASSIGN1] ボタン [ASSIGN2] ボタン	あらかじめ、シーンやシステムで割り当てておいたパラメーターをコントロール・つまみ／スライダーで調節できます。ASSIGN1 は各シーンで設定したパラメーターを調節します。ASSIGN2 はシステムで設定したパラメーターを調節します。

3. コントロール・つまみ／スライダーを動かします。

パンや音量など、割り当てられた機能に従って、音色が変化します。

メモ

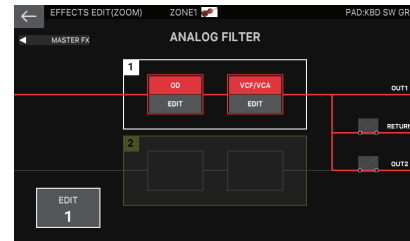
[SHIFT] ボタンを押しながら、[ASSIGN1] [ASSIGN2] ボタンを押すと、パラメーターを割り当てるための設定画面が表示されます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

Analog Filter の使いかた

本機は、アナログ・フィルターを搭載することで幅広い音作りを可能にしています。

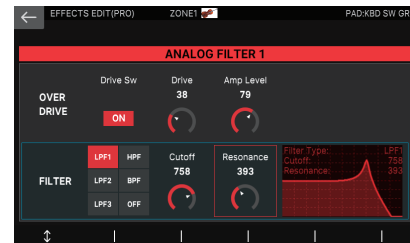
1. [ANALOG FILTER] ボタンを押します。

Analog Filter 画面が表示されます。



2. <EDIT>にタッチします。

ANALOG FILTER のエディット画面が表示されます。



3. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。

セクション	説明
OVERDRIVE	歪み具合を調整します。
FILTER	5 つのタイプを持ったアナログ・フィルターです。

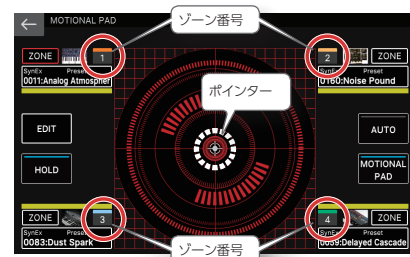
複数のゾーンの音量を同時に変更する (モーショナル・パッド)

モーショナル・パッド機能は、4 つのゾーンの音量を、画面をドラッグすることで一度に変更できる機能です。モーショナル・パッド機能を使うと、指一本の操作で、バラエティーに富んだ音色の変化をリアルタイムに得ることができます。

1. [MOTIONAL PAD] ボタンを押します。

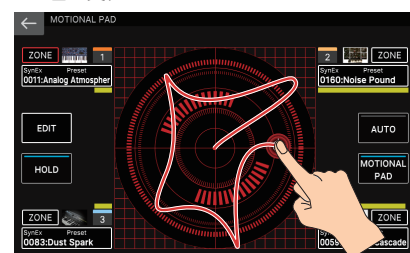
MOTIONAL PAD 画面が表示されます。

画面の 4 隅のゾーン番号欄に、モーショナル・パッド機能で使用しているゾーンの番号が表示されます。該当するゾーンがオフになっている場合は、ZONE INT/EXT ボタン [1] ～ [8] を押して、ゾーンをオンにします。



2. 画面中央の円 (ポインター) をドラッグして位置を動かします。

ポインターの位置に応じて、4 つのゾーンの音量バランスが変わり、リアルタイムに音が変化します。

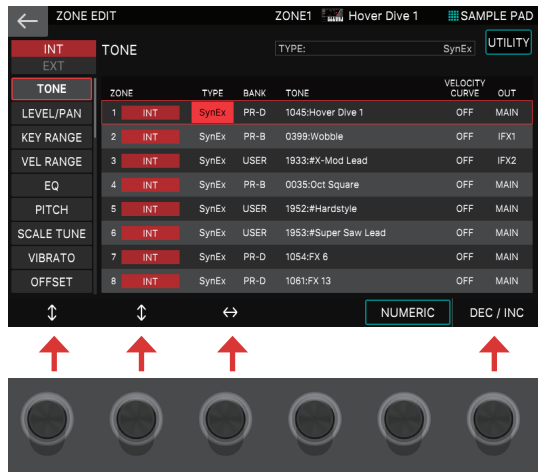


エディット編

ゾーンをエディットする

ゾーンは 16 ゾーンあり、ゾーンごとに音量 (Level)、イコライザー (EQ)、キーレンジ (KBD) などの設定ができます。

1. シーンを選びます。
2. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
3. <ZONE EDIT>にタッチします。
ZONE EDIT 画面が表示されます。
4. ZONE SELECT ボタン [1] ~ [8] ボタンを押して、操作するゾーンを選びます。
ゾーン 9 ~ 16 を選ぶときは、[ZONE 1-8/9-16] ボタンでグループを切り替えてから、[1] ~ [8] ボタンを押します。
5. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。



つまみ [E1] ~ [E6] を使って、タブのスクロールやカーソルの移動、パラメーターを直接変更することができます。

注意

エディットしたゾーンの設定は一時的なものです。電源を切ったり、他のゾーンを選んだりすると消えてしまいます。
設定を残しておきたいときは、シーンを保存してください (P.15)。

メモ

パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

トーンをエディットする

トーンをエディットします。

1. 「トーンを選ぶ」(P.12) の手順に従って、エディットしたいトーンを選びます。
2. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
3. <TONE EDIT>にタッチします。
TONE EDIT ZOOM 画面が表示されます。



4. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。
つまみ [E1] ~ [E6] を使って、タブのスクロールやパラメーターを直接変更することができます。

メモ

- 選ばれているタブによって、TONE EDIT ZOOM 画面は異なります。
- TONE EDIT PRO 画面で、より詳しいエディットをすることができます。詳しくは「リファレンス・マニュアル」(PDF) をご覧ください。
- トーン・パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。
- TONE EDIT ZOOM 画面でエディットする以外にも、パネル右側の OSC セクション、FILTER セクション、ENV/AMP セクションのつまみやボタンを直接操作してトーンをエディットできます。(P.5)

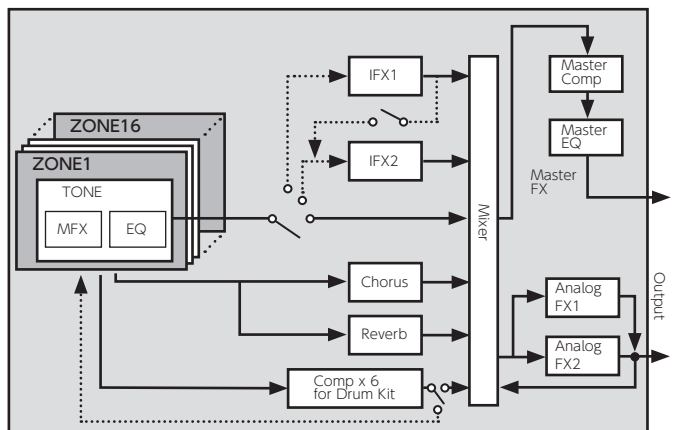


注意

エディットしたトーンは一時的なものです。電源を切ったり、他のトーンを選んだりすると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、トーンを保存してください (P.15)。

エフェクトをエディットする

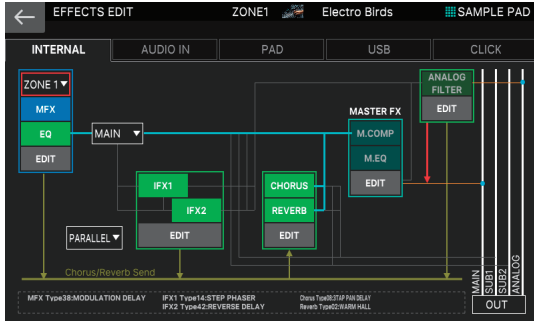
本機にはトーンごとに持つエフェクト (MFX) や、シーンごとに設定できるエフェクト (IFX1、IFX2、Chorus、Reverb) やシステムで設定できるエフェクト (Master FX) など、さまざまなエフェクトが搭載されています。



トーンのエフェクト (MFX) をエディットする

トーンのエフェクト (MFX) をエディットします。

1. **[MENU]** ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
2. **< EFFECTS EDIT >** にタッチします。
EFFECTS EDIT 画面が表示されます。

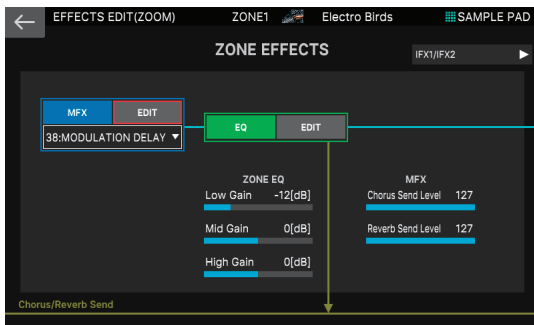


MFX をオン / オフする

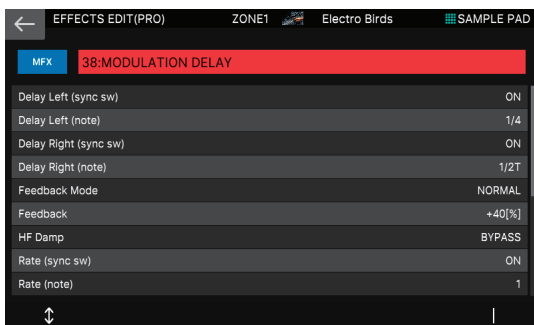
1. 画面内の **< MFX >** をタッチしてオン / オフを切り替えます。

MFX のパラメーターを設定する

1. MFX セクションの **< EDIT >** にタッチします。
EFFECTS EDIT (ZOOM) 画面が表示されます。



2. MFX セクションの **< EDIT >** にタッチします。
MFX の EFFECT PRO EDIT 画面が表示されます。



3. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。
つまみ [E1] ~ [E6] を使って、カーソルの移動や、パラメーターの直接変更ができます。

注意

エディットした各種エフェクトは一時的なものです。電源を切ったり、他のシーン、トーンを選んだりすると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、シーン、トーン、またはシステム設定をそれぞれ保存してください。

メモ

- エフェクトは、画面でエディットする以外にも、パネル右側の EFFECTS セクションのつまみやボタンを操作してエディットができます。(P.5)
- パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

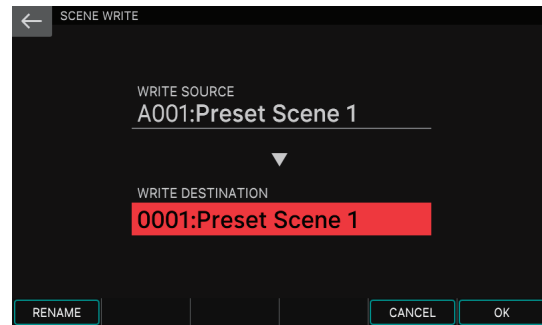
シーン、トーンを保存する

エディットしたゾーンやトーンや録音データは一時的なものです。電源を切ったり、他のシーンやトーンを選んだりすると消えてしまいます。エディットした内容や録音したデータを残したい場合は、保存操作をしてください。

注意

保存操作をすると、保存先にあったデータは上書きされます。

1. **[WRITE]** ボタンを押します。
WRITE MENU 画面が表示されます。
2. 保存したい項目にタッチします。
例として **< SCENE >** をタッチすると、SCENE WRITE 画面が表示されます。

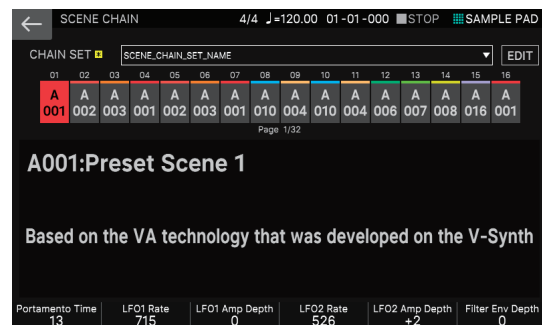


3. 名前を変更したい場合は、**< Rename >** をタッチして、名前を変更します。
名前を変更したら **< OK >** をタッチしてウィンドウを閉じます。
4. **[VALUE]** ダイヤルまたは **[DEC]** **[INC]** ボタンで、保存先を選びます。
5. **< OK >** にタッチします。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは **< CANCEL >** にタッチします。
6. **< OK >** にタッチします。
データが保存されます。

曲の順番にシーンを呼び出す (シーン・チェーン)

ライブで演奏する曲の順番にシーンを呼び出したいときは、シーン・チェーン (SCENE CHAIN) 機能を使います。
シーン・チェーンはシーン自体の番号はそのまま、使いたいシーンだけを自分の好きなように並べ替えることができます。並べたシーンはチェーン・セットとして記憶させることができ、チェーン・セットを変えることでシーンの並びをかえることができます。

1. **[SCENE CHAIN]** ボタンを押します。
SCENE CHAIN 画面が表示されます。



2. **[CHAIN SET]** 名をタッチして、チェーン・セットを切り替えます。
チェーン・セットにはシーンの並びを登録することができます。演奏する順番に音色を並べておくと便利です。
3. **トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16]** を押して、シーンを選びます。
画面内に横に並んだ 16 個のシーンがトーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] それぞれに対応します。
 - 画面内のシーン・アイコンを直接タッチしてシーンを選ぶこともできます。
 - シーン・アイコンの左右端にある **▶** (**◀**) アイコンをタッチすると、次の (前の) 16 個のシーンを選ぶようになります。

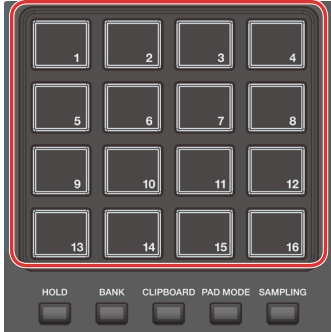
サンプラー編

本機では、鍵盤の演奏や、オーディオ機器やマイクなどの入力音を、オーディオ録音（サンプリング）できます。サンプリングされたサンプルは、パッドを押して再生します。

パッドを押してサンプルを鳴らす

ここではサンプリングした音を、パッド [1] ～ [16] 使って鳴らす手順を紹介します。（サンプル・パッド機能）
あらかじめ「パッドに便利な機能を割り当てる（PAD MODE）」の手順に従って、パッドの機能に「SAMPLE PAD」を選んでおきます（P.16）。

1. パッド [1] ～ [16] を押します。



サンプルが再生されます。
複数のパッドを同時に押して再生することもできます。

サンプルを再生し続ける（ホールド）

1. パッドを押している間に [HOLD] ボタンを押します。



パッドから手を離してもサンプルの再生が続きます。サンプルを停止するときには、もう一度パッドを押します。

バンクを切り替える

サンプルは 16 個単位で 4 つのバンクに割り振られており、バンクを切り替えると各パッドに割り当てられているサンプルも切り替わります。

1. [BANK] ボタンを押します。



2. パッド [1] ～ [4] ボタンを押して、バンクを選びます。

音が止まらなくなったときは!!

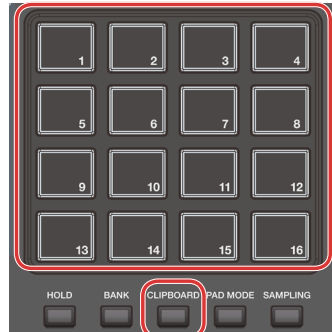
[HOLD] ボタンを素早く 4 回連続で押してください。パッドで鳴らしているすべての音を止めることができます。

サンプルを移動／コピーする

サンプルを別のパッドに移動したりコピーしたりすることができます。

サンプルを移動する

1. 移動したいサンプルがあるパッドを押しながら、[CLIP BOARD] ボタンを押します。



2. [CLIP BOARD] ボタンを押しながら、移動先のパッドを押します。

サンプルが移動します。

※ 移動先のパッドにサンプルがある場合は、「Overwrite OK?」とメッセージが出ます。
上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

サンプルをコピーする

1. コピーしたいサンプルがあるパッドと [SHIFT] ボタンを押しながら、[CLIP BOARD] ボタンを押します。

2. [CLIP BOARD] ボタンを押しながら、コピー先のパッドを押します。

※ コピー先のパッドにサンプルがある場合は、「Overwrite OK?」とメッセージが出ます。
上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

パッドに便利な機能を割り当てる（PAD MODE）

16 個のパッドを使って、シーンを選ぶ、サンプルを鳴らすなど、いろいろな機能を割り当てることができます。
サンプルの再生やシーンの選択以外にも、便利な機能をパッドに割り当てることができます。

1. [PAD MODE] ボタンを押します。
2. パッド [1] ～ [16] ボタンを押して、機能を選びます。
選んだ機能に応じて、設定画面が表示されます。

メモ

各機能について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

サンプリングする

本機は、以下の音をサンプリングしてサンプルを作ることができます。

- 鍵盤の演奏
- MIC/LINE INPUT 端子 1、2 からの入力音（オーディオ機器、マイク）
- USB COMPUTER 端子からの入力音

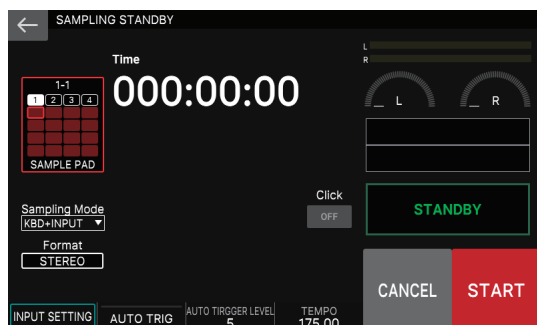
1. 必要に応じて、MIC/LINE INPUT 端子 1、2 にサンプリングする機器（オーディオ機器やマイク）を接続します。

メモ

オーディオ機器をステレオでサンプリングするときには、Lch を MIC/LINE INPUT 端子 1、Rch を MIC/LINE INPUT 端子 2 に接続してください。

2. [SAMPLING] ボタンを押して、点滅させます。

SAMPLING STANDBY 画面が表示されます。



3. <SAMPLE PAD> ボタンにサンプリングされる SAMPLE PAD のバンクと番号が表示されているのを確認します。

4. SAMPLE PAD のバンクと番号を変更したい場合は、<SAMPLE PAD> ボタンにタッチします。

SAMPLING DESTINATION (PAD) 画面で、変更したい SAMPLE バンクと番号を指定します。

メモ

サンプリングしたいパッドにすでにサンプルがある場合は、「Overwrite OK?」とメッセージが出ます。上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

5. <Sampling Mode> にタッチして、サンプリング・モードを選びます。

パラメーター	説明
KBD+INPUT	鍵盤の演奏と MIC/LINE INPUT 端子 1、2、USB COMPUTER 端子からの入力音をサンプリングします。
KBD	鍵盤の演奏をサンプリングします。
INPUT	MIC/LINE INPUT 端子 1、2 端子と USB COMPUTER 端子からの入力音をサンプリングします。

6. サンプリングする音量を調節します。

レベル・メーターが振り切れない範囲で、なるべく大きくなるように音量を調節します。

サンプリングする機器	説明
オーディオ機器	リア・パネルの LEVEL つまみ 1、2 と、オーディオ機器側で調節します。
マイク	リア・パネルの LEVEL つまみ 1、2 で調節します。
USB COMPUTER	USB Audio Input Level で調節します。(P.22)

7. サンプリングの設定をします。

画面内のパラメーターをタッチしてオン/オフ、または選んで [VALUE] ダイアルで設定値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Format	MONO	1 つの波形としてサンプリングします。 1 本のマイクを使い、モノでサンプリングするときを選びます。 ステレオで入力している場合は、L と R の音をミックスしてサンプリングします。
	STEREO	L と R の 2 つの波形としてサンプリングします。 オーディオ機器など、ステレオでサンプリングするときを選びます。
AUTO TRIGGER LEVEL	0 ~ 15	Auto Trig を「ON」に設定すると、ここで設定した値以上の信号が入力されたらサンプリングが始まります。
AUTO TRIGGER	OFF、ON	「ON」にすると、AUTO TRIGGER LEVEL の設定以上の信号が入力されたらサンプリングが始まります。 「OFF」に設定すると、< START > をタッチするとすぐにサンプリングが始まります。

8. 本機に接続した機器を鳴らし、サンプリングを開始するタイミングで < START > にタッチします。

サンプリング中は「NOW SAMPLING!」と表示されます。

手順 7 で AUTO TRIGGER を「OFF」に設定しているとき

< START > をタッチすると、サンプリングが始まります。
本機に接続した機器を鳴らします。

手順 7 で AUTO TRIGGER を「ON」に設定しているとき

本機に接続した機器を鳴らして、AUTO TRIGGER LEVEL で設定した値以上の信号が入力されると、サンプリングが始まります。

9. サンプリングを終了するタイミングで、< STOP > にタッチします。

サンプリングが停止し、サンプリング先のパッドへ保存されます。

メモ

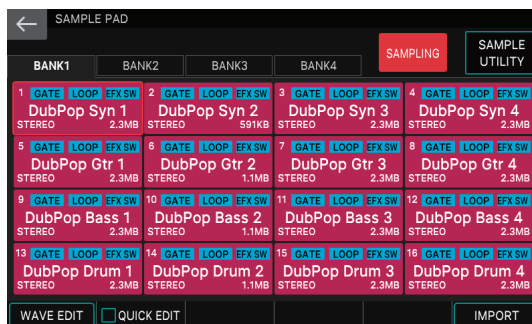
- サンプルのデータは、本機のサンプル・メモリーに保存されます。
- パソコンのオーディオ・ファイルのデータをサンプルとして読み込むことができます。
詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

サンプルを削除する (Delete)

サンプルを削除します。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [PAD MODE] ボタンを押します。

SAMPLE PAD 画面が表示されます。



2. パッドを押して、削除するサンプルを選びます。

3. < SAMPLE UTILITY > にタッチします。

4. < DELETE > にタッチします。

確認のメッセージが表示されます。
中止するときは < CANCEL > にタッチします。

5. < OK > にタッチします。

サンプルが削除されます。

入力音量を設定する (Input Setting)

MIC/LINE INPUT 端子 1、2 に接続した機器の入力音量を設定します。

1. SAMPLING STANDBY 画面 (P.17) で、< INPUT SETTING > にタッチします。

2. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。

メモ

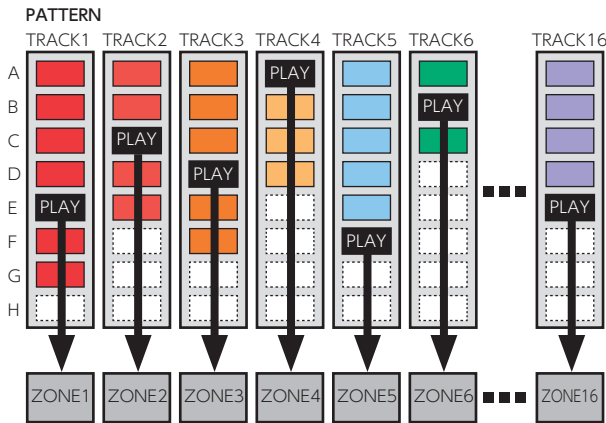
USB COMPUTER 端子に接続した機器の入力音量は、「USB オーディオ入力の調整」(P.22) をご覧ください。

シーケンサー編

シーケンサーの構成について

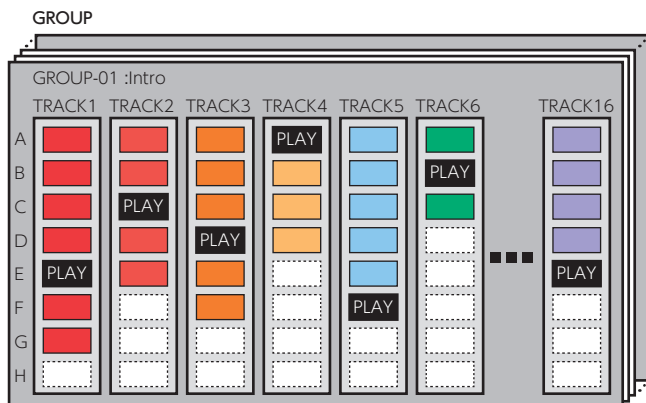
パターン

本機のシーケンサーは、各ゾーンと対になった、16 個のトラック (TRACK) に録音、再生をします。各トラックはそれぞれ最大 8 個のパターン (PATTERN) を持つことができ、このバリエーションをパターンと呼びます。トラックごとに、バリエーションを切り替えながら再生することができます。1 つのパターンは最大 32 小節の長さを持ち、各パターンに設定された長さでループ再生されます。



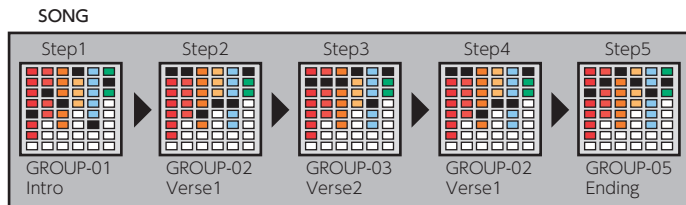
グループ

各トラックに作成したパターンの組み合わせをグループと呼びます。「Intro」、「[Verse]」、「[Fill]」といったように、曲の展開ごとにグループを作成しておくことができます。



ソング

作成したグループを曲の構成に従って順番に並べたものを、ソングと呼びます。各グループ単位や、ソング全体で繰り返し (LOOP) の設定をすることができます。



メモ

パターン、グループ、ソングはすべてシーンごとに保存されます。

シーケンサーを再生する

パターンの再生

1. シーンを選びます。
2. [PATTERN] ボタンを押します。
PATTERN 画面が表示されます。



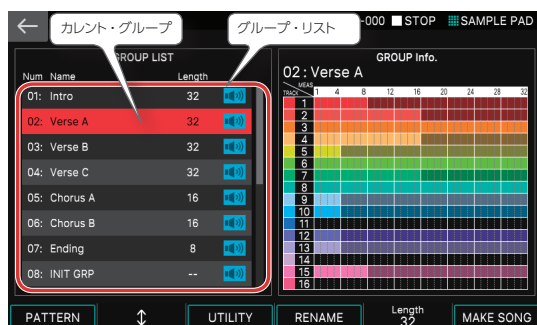
フレーズが録音されている箱 (パターン・ボックス) は、カラーで表示されます。各トラックの録音済みのパターン・ボックスを長くタッチすると、パターン・ボックスがハイライト表示に変わります。これは再生スタンバイを意味し [▶PLAY] ボタンを押したときに再生されます。再生スタンバイにできるパターン・ボックスは各トラックに 1 つだけです。



3. [▶PLAY] ボタンを押します。
各トラックの再生スタンバイにしたパターンが再生されます。
 - 再生されていないパターン・ボックスにタッチすると、タッチしたパターンが再生されます。
 - 画面内の色のついていないパターン・ボックスを直接タッチすることで、トラックごとにパターンを切り替えることができます。
4. [■STOP] ボタンを押して、すべてのトラックのパターン再生を停止させます。
 - 再生中のパターン・ボックスにタッチすると、タッチしたパターンだけを停止できます。
 - 別のパターンを再生しているときに、パターン切り替えや停止/再生をすると、小節の区切りのタイミングに合わせて自動的に停止/再生します。

グループの再生

1. シーンを選びます。
2. [GROUP] ボタンを押します。
GROUP 画面が表示されます。



- ・現在選ばれているグループ (カレント・グループ) はカーソルで示されます。
 - ・画面右側には、各トラックの 패턴の長さが表示され、つまみ [E5] でグループの小節数を設定することができます。
3. [▶PLAY] ボタンを押します。
カレント・グループが再生されます。
 4. 再生を停止させるときは [■STOP] ボタンを押します。
 5. 別のグループを選ぶときは、直接グループ名をタッチして選びます。
[E2] つまみで選ぶこともできます。

ソングの再生

1. シーンを選びます。
2. [SONG] ボタンを押します。
SONG 画面が表示されます。



番号のついた箱 (グループ・ボックス) が並んでいます。
各グループ・ボックス内には、グループ番号、グループ・ネーム、ループ回数などの情報が表示されます。空のグループ・ボックスには何も表示されません。

3. [▶PLAY] ボタンを押します。
ソングが再生され、番号順にグループが再生されます。
現在再生中のグループ (カレント・グループ) は緑色のグループ・ボックスで表示されます。
4. [■STOP] ボタンを押すと再生を停止します。

パターンを録音する

パターンの録音方法には、次の 3 つの方法があります。

リアルタイム録音 (Realtime REC)	鍵盤の演奏やコントローラーの操作をそのまま録音して、パターンを作成します。
ステップ録音 (Step Rec)	鍵盤の演奏をステップごとに順番に録音して、パターンを作成します。
TR-REC	楽器 (インスト) ごとに、音を鳴らすタイミングをステップ上の好きな位置にセットしていく方法です。ドラム・パターンの作成に適しています。

録音前に以下の手順ですすでに入っているパターンを削除しておきましょう。

1. シーンを選びます。

注意

パターンを作成したあと、シーンを保存せずに他のシーンに切り替えたり、電源をオフにしたりすると、作成したデータは消えてしまいます。

2. [PATTERN] ボタンを押します。
PATTERN 画面が表示されます。
3. <PTN UTILITY> にタッチします。
PATTERN UTILITY 画面が表示されます。

4. <DELETE> にタッチします。
DELETE MENU が表示されます。
5. <DELETE ALL> にタッチします。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、<CANCEL> にタッチします。
6. 実行するときは、<OK> にタッチします。
すべてのパターンが削除されます。

注意

削除したパターンは元に戻せません。

リアルタイム録音 (Real Time REC)

1. [●REC] ボタンを押します。
REC STANDBY 画面が表示されます。
2. 録音の設定をします。
画面内の各パラメーターを直接タッチして選ぶか、または [VALUE] ダイアルで値を設定します。



録音パラメーター	説明
Count In	録音開始時にカウント・インを付けます。 録音開始前 (停止中) に設定します。
Time Signature	拍子を設定します。 すべてのパターンが空のときに設定できます。
Input Quantize	録音時にかけるクオンタイズの設定をします。
RHY SYNC	録音開始と同時に、現在選ばれているリズム・パターンを自動的に再生して録音するか (ON)、録音しないか (OFF) を設定します。
LOOP REC SW	ON: Length の小節の長さまで録音したあと、録音状態を維持します。 OFF: Length の小節の長さまで録音したとき、録音状態から再生状態に移行します。
REC EVENT	録音する演奏データを選んでリアルタイム・レコーディングすることができます。
CLICK	クリック (メトロノーム) をオン/オフします。
Tempo	テンポを設定します。
Length	パターンの長さを設定します。
NEW / MIX	新規に録音するか、オーバーダブで録音するかを設定します。

<TRACK / PATTERN> をタッチすると、PATTERN 画面に移動するので、この画面で録音するトラック (1 ~ 16) とパターン (A ~ H) を選びます。
録音先のトラックを変えることで、トラックが鳴らすゾーンも連動して動きます。
(例) Track2: Zone2 (Bass) → Track10: Zone10 (Drum)
PATTERN 画面でトラック、パターンを選んだら、再度 [REC] ボタンを押します。

3. [▶PLAY] ボタンを押して録音を開始します。
<START> をタッチして録音を開始することもできます。
4. 鍵盤を演奏します。
つまみやコントローラーの操作も記録されます。
5. [■STOP] ボタンを押して、録音を終了させます。
録音が終わったら、必要に応じて手順 1 ~ 5 の操作を繰り返して、同じトラックにパターンのバリエーションを録音したり、別のトラックの録音をしたりします。
次のセクションでグループやソングの作成をする際に、違いが分かりやすいように数トラックに分けて、いくつかのパターンを作成しておくといでしょう。

ステップ録音 (Step REC)

1. **[●REC]** ボタンを押します。
REC STANDBY 画面が表示されます。
2. **< TRACK / PATTERN >** で録音するトラックを確認します。



< TRACK / PATTERN > をタッチすると、PATTERN 画面に移動するので、この画面で録音するトラック (1 ~ 16) とパターン (A ~ H) を選びます。録音先のトラックを変えることで、トラックが鳴らすゾーンも連動して動きます。(例) Track2:Zone2 (Bass) → Track10:Zone10 (Drum) PATTERN 画面でトラック、パターンを選んだら、再度 [REC] ボタンを押します。

3. **< STEP REC >** にタッチします。
STEP RECORDING 画面が表示されます。
4. 入力する音符の設定をします。
画面内の各録音パラメーターを設定します。



録音パラメーター	説明
Note Type	入力する音符の種類を設定します。
Gate Time	ゲート・タイムの設定をします。
Velocity	ベロシティーの設定をします。

5. 鍵盤を 1 回弾きます。
ステップ 1 に演奏が記録され、自動的にステップ・タイムの分だけ、画面内のステップ・ポジションが進みます。
複数の音を弾くと、和音の録音ができます。
6. 手順 6 の操作を繰り返し、ステップごとに録音します。
7. **[EXIT]** ボタンを押して録音を終了させます。

メモ

- ・休符を入れたいときは、< REST > にタッチします。
- ・ステップのデータを消したいときは、< STEP BACK > にタッチします。
- ・タイを入れたいときは、< TIE > にタッチします。
- ・直前に入れたタイを取り消したいときは、< UNTIE > にタッチします。
- ・録音する小節の位置を変更したいときは、つまみ [E6] を使います。
- ・画面左端の鍵盤スクロール・バーを使うと表示される音域が、上下に移動します。
- ・画面上部のピアノロール・タイプのスクロール・バーを使うと表示エリアを小節方向に移動できます。

TR-REC

TR-REC とは

TR-REC はトーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] を使って、楽器 (インスト) ごとに音を鳴らすタイミングをセットしていく方法です。自分でセットしたリズムを聴きながら操作できます。たとえば、図 1 のようなドラム・パターンは、図 2 のようにセットします。

図 1



図 2

Step Number	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
Closed Hi-Hat	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Snare Drum	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
Bass Drum	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

■ ボタン点灯

□ ボタン消灯

ドラム・キットの場合、鍵盤で楽器 (インスト) を鳴らすとトーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] が点灯/消灯して、どのステップで発音するのかが確認することができます。
トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] を押すと点灯/消灯が切り替わり、楽器 (インスト) の発音設定を変更することができます。

1. **[●REC]** ボタンを押します。
REC STANDBY 画面が表示されます。
2. **< TRACK / PATTERN >** で録音するトラックを確認します。



< TRACK / PATTERN > をタッチすると、PATTERN 画面に移動するので、この画面で録音するトラック (1 ~ 16) とパターン (A ~ H) を選びます。PATTERN 画面でトラック、パターンを選んだら、再度 [REC] ボタンを押します。

3. **< TR-REC >** にタッチします。
TR-REC 画面が表示されます。[TR-REC] ボタンが点灯し、トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] が TR-REC のステップ・ボタンの機能に代わります。

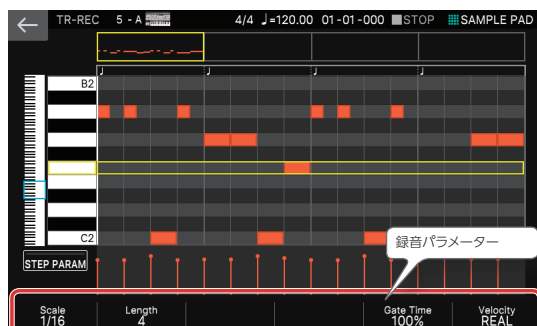
メモ

[REC] ボタンの代わりに [TR-REC] ボタンを押して TR-REC 機能にすることもできます。

4. TR-REC の設定をします。

画面内の各録音パラメーターを設定します。

トーン



ドラム・キット

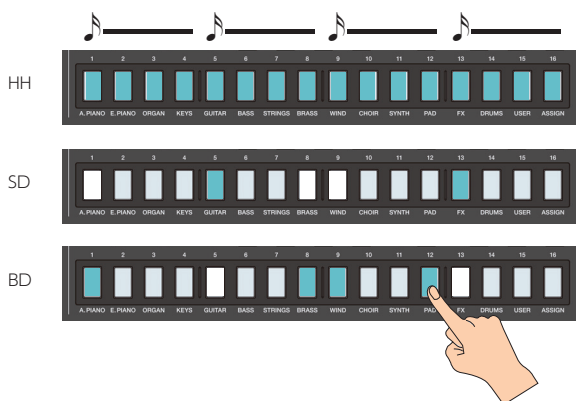


録音パラメーター	説明
Scale	1 ステップの長さを設定します。
Gate	ゲート・タイムの設定をします。
Velocity	ベロシティの設定をします。

5. 鍵盤で録音する楽器（インスト）を指定します。（ドラム・キットのみ）

鍵盤で押さえた音高が変わると、楽器（インスト）が変わります。
ドラム・キット以外のトーンでは鍵盤で入力するピッチを指定します。

6. トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] を押して、音を鳴らしたいステップを点灯させます。



画面内の対応したステップ位置に音が入力されます。
音を消したい場合は、点灯しているトーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] ボタンを押して消灯させます。
▶PLAY ボタンを押してパターンを再生させながら、入力することもできます。

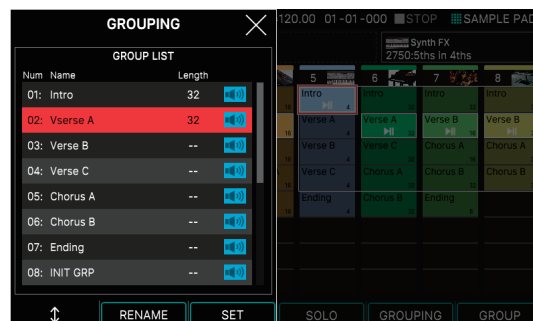
7. 点灯している [TR-REC] ボタンを押して、録音を終了させます。

メモ

- リアルタイム録音、ステップ録音中に TR-REC 状態にすることはできません。
- [SHIFT] ボタンを押しながら、トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [4] を押して、入力位置を変更できます。（スケールによっては [SHIFT] ボタン+トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [8]）。
- 画面左側の鍵盤（インスト）部分をスクロールさせると、表示エリアを上下方向に移動できます。
- 画面上部のピアノロール・タイプのスクロール・バーを使うと、表示エリアを小節方向に移動できます。

グループの作成

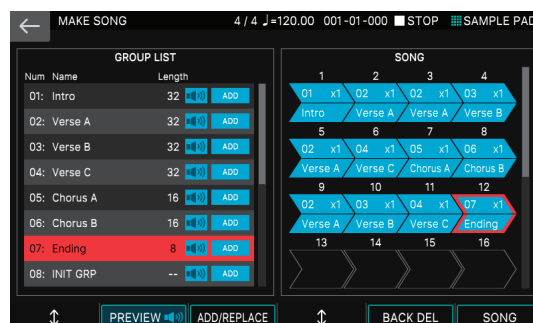
- [PATTERN] ボタンを押します。
PATTERN 画面が表示されます。
- 各トラックのパターンを選んで、組み合わせを決めます。
- < GROUPING > にタッチします。
GROUP LIST が表示されます。



- セットしたい番号にカーソルを合わせます。
- < SET > にタッチします。
確認メッセージが表示されます。
中止するときは、< CANCEL > にタッチします。
- 実行するときは、< OK > にタッチします。
現在の各トラックの、パターンの組み合わせがグループとして登録されます。
- 必要に応じて、手順 2 ~ 6 を繰り返し、グループを作成します。
< RENAME > をタッチすると、作成したグループに名前を付けることができます。

ソングの作成

- [GROUP] ボタンを押します。
GROUP 画面が表示されます。
- < MAKE SONG > にタッチします。
MAKE SONG 画面が表示されます。



- 画面左側の GROUP LIST から 1 番目に再生したいグループの < ADD > にタッチします。
右側の SONG 欄にタッチしたグループが追加され、入力位置が 1 つ進みます。

メモ

- < ADD/REPLACE > をタッチして REPLACE で入力すると、入力位置のグループを置き換えます。
- 最大入力数は 32 グループです。
- < BACK DEL > をタッチすると、入力位置のグループを削除して、入力位置が 1 つ戻ります。

4. 必要に応じて、手順 3 を繰り返し、ソングを作成します。

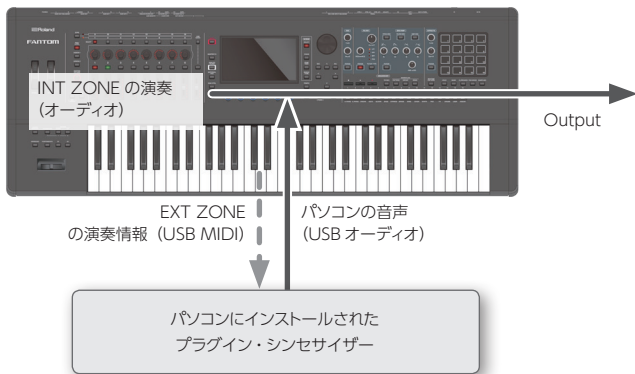
注意

グループやソングを作成したあと、シーンを保存せずに他のシーンに切り替えたり、電源をオフにしたりすると、作成したデータは消えてしまいます。

コントロール編

プラグイン・シンセを使ってライブ演奏する

パソコンにインストールされているプラグイン・シンセサイザーを、本機で演奏することができます。



パソコンと接続する

USB ドライバーは、パソコン上のソフトウェアと本機との間でデータをやりとりするソフトウェアです。本機/パソコンに接続してお使いになるには、USB ドライバーのインストールが必要です。

メモ

USB ドライバーのダウンロードとインストール手順について詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

USB ドライバーを設定する

パソコンと接続するときに、使用する USB ドライバーを設定します。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. <SYSTEM> にタッチします。
3. <GENERAL> タブにタッチします。
4. [USB Driver] を選び、[VENDER] に設定します。

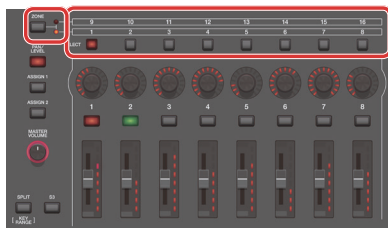
パラメーター	設定値	説明
USB Driver	VENDER	ローランドのホームページからダウンロードした USB ドライバーをお使いのときに選びます。
	GENERIC	パソコンに標準添付の USB ドライバーをお使いのときに選びます。 ※ MIDI のみ使えます。

5. [WRITE] ボタンを押して SYSTEM 設定を保存します。
6. 本機の電源を入れ直します。

外部 MIDI 機器をコントロールする (EXT MIDI OUT)

MIDI OUT 端子、USB MIDI OUT から、本体のつまみ操作や鍵盤の情報を MIDI メッセージとして出力できます。また、CV/GATE OUT 端子から鍵盤情報を、CV/GATE 信号として出力できます。特定のゾーンを [EXT] にすることで、そのゾーンを外部 MIDI 機器用のゾーンとして使うことができます。

1. MIDI 出力させたいゾーンの ZONE SELECT ボタンを押します。
ゾーン 9 ~ 16 を選ぶときは、[ZONE 1-8/9-16] ボタンでグループを切り替えてから、ZONE SELECT [1] ~ [8] ボタンを押します。



2. 選んだゾーンの ZONE INT/EXT ボタンを押して、緑点灯させます。

緑色になっていない場合は、[SHIFT] ボタンを押しながら、対象の ZONE INT/EXT ボタンを押して緑点灯 (EXT 設定) させます。緑点灯 (EXT 設定) のときは、MIDI メッセージを出力します。複数のゾーンの ZONE INT/EXT ボタンが点灯しているときは、ZONE SELECT ボタンで指定されたゾーン (カレント・ゾーン) との組み合わせで外部音源に MIDI 出力するかどうかが決まります。(P.12)

ボタンの状態	対象となるゾーンがカレント・ゾーンのとき	対象となるゾーンがカレント・ゾーンではないとき
消灯 (COMMON)	鍵盤を弾くと、内蔵音源、外部音源共に鳴ります。	鍵盤を弾いても、内蔵音源、外部音源共に鳴りません。内蔵シーケンサーや外部からの MIDI データで内蔵音源を鳴らすことはできます。
赤点灯 (INT)	鍵盤を弾くと、内蔵音源が鳴ります。	他のカレント・ゾーンの ZONE INT/EXT ボタンがオン状態 (赤、または緑に点灯) のときのみ、鍵盤を弾くと、内蔵音源が鳴ります。
緑点灯 (EXT)	鍵盤を弾くと、外部音源が鳴ります。	他のカレント・ゾーンの ZONE INT/EXT ボタンがオン状態 (赤、または緑に点灯) のときのみ、鍵盤を弾くと、外部音源が鳴ります。
オレンジ点灯 (MUTE)	音源がミュートされた状態です。内蔵音源は鳴りません。直前の状態が緑点灯のときは、外部音源が鳴ります。	

3. 目的に応じて、[PAN/LEVEL] ボタン、[ASSIGN 1] ボタン、[ASSIGN 2] ボタンのいずれかを押します。
4. コントロール・つまみ [1] ~ [8]、スライダー [1] ~ [8] を操作すると、手順 3 で押したボタンに応じて、MIDI 情報を出力します。

メモ

- ZONE EDIT (P.14) で、詳細設定をすることができます。
- 設定した内容はシーンの設定として保存できます。「シーンを保存する」(P.15)

USB オーディオを使う

USB オーディオ入力の調整

USB 接続したパソコンなどの機器から本機にオーディオを入力します。

1. [USB AUDIO SELECT] ボタンを押します。
USB-AUDIO メニューが表示されます。
2. カーソルを [USB Audio Input Switch] に合わせ、[VALUE] ダイアルで値を [ON] にします。
接続した機器からのオーディオ入力が入オンになります。
3. カーソルを [USB Audio Input Volume] に合わせ、[VALUE] ダイアルで入力レベルを調節します。

メモ

[USB Audio In/Out Select] が IN の場合は [USB AUDIO] スライダーで値を変更することもできます。

USB オーディオ出力の調整

USB 接続したパソコンなどの機器に、本機のオーディオを出力します。

1. [USB AUDIO SELECT] ボタンを押します。
USB-AUDIO メニューが表示されます。
2. カーソルを [USB Audio Output Switch] に合わせ、[VALUE] ダイアルで値を [ON] にします。
接続した機器へのオーディオ出力が入オンになります。
3. カーソルを [USB Audio Output Volume] に合わせ、[VALUE] ダイアルで出力レベルを調節します。

メモ

[USB Audio In/Out Select] が OUT の場合は [USB AUDIO] スライダーで値を変更することもできます。

アナログ・シンセサイザーをコントロールする (CV / GATE OUT)

CV/GATE 入力端子を備えたアナログ・シンセサイザーを接続すると、ノート・オン/オフやピッチをコントロールできるようになります。

端子	説明
GATE OUT 1 端子	ノート・オン/オフを出力します。
GATE OUT 2 端子	+5V を出力します。
CV OUT 1 端子	ピッチを出力します。
CV OUT 2 端子	トランスポーズやオクターブ・シフトが設定されているときは、設定に応じて電圧が変化します。 OCT/VV に対応しています (Hz/V には非対応)。

メモ

GATE OUT2 は CV OUT に変更することができます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

各機能の詳細設定をする (Menu)

1. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
2. 画面内の目的のメニュー欄にタッチします。
3. 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

メモ

各メニューについて、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

メニュー	説明
TONE EDIT	トーンのエディットをします (P.14)。
EFFECTS EDIT	エフェクトのエディットをします (P.14)。
ZONE EDIT	ゾーンのエディットをします (P.14)。
SCENE EDIT	シーン全体の設定をします (P.12)。
MIXER	パンや音量バランスを調節することができます。
SYSTEM	本機全体の設定をします。
UTILITY	データのバックアップや本体の初期化をします (P.23)。

ユーザー・データをバックアップする (Backup / Restore)

本機に記憶されているすべての設定を、USB メモリーに保存したり (バックアップ)、本体に書き戻したり (リストア) することができます。

USB メモリーにバックアップする (Backup)

注意

USB メモリーに保存されているバックアップ・データと同じファイル名でバックアップすると、データは上書きされます。新たにバックアップするときは、別の名前を付けてください。

1. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
2. < UTILITY > にタッチします。
UTILITY 画面が表示されます。
3. < BACKUP > にタッチします。
4. バックアップするファイルの名前を変更したい場合は、< RENAME > をタッチして名前を付けます (P.10)。
名前を変更したら < OK > をタッチしてウィンドウを閉じます。
5. < OK > にタッチします。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、< CANCEL > にタッチします。
6. 実行するときは、< OK > にタッチします。

注意

画面に「working..」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

バックアップしたデータを本体に戻す (Restore)

注意

リストア操作をすると、現在本機に保存されているすべての設定は消えてしまいます。現在の設定を残しておきたいときは、別の名前を付けてバックアップしてください。

1. UTILITY 画面で < RESTORE > にタッチします。
2. リストアするファイルをタッチして選び、< RESTORE > にタッチします。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、< CANCEL > にタッチします。
3. 実行するときは、< OK > にタッチします。

注意

画面に「working..」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

4. 電源を入れ直します (P.8)。

工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset)

本機に記憶した設定を、工場出荷時の設定に戻すことができます (ファクトリー・リセット)。

注意

ファクトリー・リセットをすると、本機に保存されているデータは、すべて失われてしまいます。データを残しておきたいときは、USB メモリーにバックアップしてください。

1. MENU 画面で < UTILITY > にタッチします。

2. < FACTORY RESET > にタッチします。

確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、< CANCEL > にタッチします。

3. 実行するときは、< OK > にタッチします。

注意

ファクトリー・リセット中は、絶対に電源を切らないでください。

主な仕様

ローランド FANTOM: ミュージック・ワークステーション

	FANTOM-6	FANTOM-7	FANTOM-8
鍵盤	61 鍵 (セミウェイテッド鍵盤、 アフタータッチ対応)	76 鍵 (セミウェイテッド鍵盤、 アフタータッチ対応)	88 鍵 (PHA-50 ハイブリッド構造、 アフタータッチ対応)
電源	AC100V (50 / 60Hz)		
消費電力	50W		
外形寸法	1,084 (幅) × 403 (奥行) × 106 (高さ) mm	1,296 (幅) × 403 (奥行) × 106 (高さ) mm	1,432 (幅) × 439 (奥行) × 153 (高さ) mm
質量	15.3kg	17.7kg	27.7kg
付属品	取扱説明書 電源コード 保証書 ローランド ユーザー登録カード		
別売品	キーボード・スタンド: KS-10Z、KS-12	キーボード・スタンド: KS-10Z、KS-12	キーボード・スタンド: KS-G8B、KS-10Z、KS-12
	ペダル・スイッチ: DP シリーズ、RPU-3 エクスプレッション・ペダル: EV-5 USB メモリー (*1) *1 市販の USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。		

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

メモ

スタンドへの設置方法について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。



お問い合わせの窓口



ホームページをご覧ください

Q&A、チャットサポート、メール、電話でのお問い合わせ

Roland製品

https://roland.cm/roland_support



BOSS製品

https://roland.cm/boss_support



'21. 04. 01 現在